

2026 年度

早稲田大学大学院

教育学研究科 入学試験要項

修 士 課 程

(学校教育専攻・国語教育専攻・英語教育専攻・社会科教育専攻・数学教育専攻)

一 般 入 学 試 験
特別選考制度入学試験
外 国 学 生 入 試

早 稲 田 大 学

大学院教育学研究科 入試係

[住 所] 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 16 号館 2 階

[電 話] 03-3208-0529

[Email] gse-admission@list.waseda.jp

[U R L] <https://www.waseda.jp/fedu/gedu/>

[事務所開室時間] 月曜日～金曜日 10:00～16:00

※ 但し次の期間は閉室します ・夏季一斉休業期間（2025/8/7～8/17）の全日

2026 年度 早稲田大学大学院教育学研究科入学試験要項

目 次

I. 入 学 試 験 日 程	1
II. 受 験 要 領	
1. 出願資格	2
2. 募集専攻・人員	4
3. 出願期間・出願方法・出願書類提出先	4
4. 出願上の注意	4
5. 志願者情報 Web 登録	5
6. 入学検定料	6
7. 出願書類	7
8. 受験票の送付	11
9. 試験科目・試験方法	12
10. 試験期日および合格者発表日	13
11. 試験会場	13
12. 合格者発表場所および時間	13
13. 受験上の注意事項等について	14
III. 入 学 手 続	
1. 手続書類の交付	16
2. 入学手続期間・方法	16
3. 入学手続に必要な書類	16
4. 入学手続に必要な入学金・学費・諸会費	17
5. 科目等履修生制度（教職・学芸員）について	18
6. 外国学生（外国籍）の方へ【在留資格「留学」の取得について】	18
7. 特定国からの志願者に対する検定料免除措置制度	21
8. 提携金融機関（オリコ・楽天銀行）による「早稲田大学学費ローン（入学時）」	22
IV. 募集研究指導一覧・研究指導の内容	
1. 募集研究指導一覧	23
2. 研究指導の内容	25

個人情報の取扱いについて

本学（学校法人早稲田大学が設置する早稲田大学その他の学校をいう。以下同じ。）では、志願時に収集した個人情報（住所・氏名・生年月日等）を、入学試験実施、合格者発表、入学手続およびこれらに付随する業務のために利用します。その際、当該個人情報の漏洩・流出・不正利用等がないよう、必要かつ適切な管理を行います。

また、上記業務の全部又は一部を委託する場合があります。その場合、委託先に対し、契約等により、必要かつ適切な管理を義務付けます。

本学に提出された書類・資料・論文および提供された情報等（「本提出書類等」といいます。）につき、その真正性等について、本学が発行元・提供元および論文審査機関等に対して、本提出書類等を提供して問合せをすることがあります。志願者は本提出書類等を本学に提出または提供したことをもって、本学がこの問合せを行うことに同意したものとします。

これらの他、個人が特定されないように統計処理した個人情報を、大学における入学者選抜のための調査・研究の資料として利用します。

この「入学試験要項」では、携帯電話・スマートフォン・タブレット・PHS・スマートウォッチ等の通信機能を持った機器をすべて含めて「携帯電話等」と表記しています。

I. 入 学 試 験 日 程

入試種別	一般入試 特別選考制度入試	外国学生入試	
		国内出願	国外出願
出願審査申請期限 【注1】を参照	2025 年 6 月 27 日（金）（最終日消印有効）		
出願期間	郵送のみ： 2025 年 7 月 24 日（木）～ 8 月 4 日（月）（最終日消印有効）	郵送のみ： 2025 年 7 月 7 日（月） ～7 月 25 日（金） （最終日必着）	
一次試験（筆記） 筆記試験	2025 年 9 月 20 日（土） 集 合 時 間：8 時 45 分 試 験 開 始：9 時 00 分 試 験 会 場：早稲田キャンパス 16 号館等（予定） ※選考会場・控室は、試験日当日に会場にて掲出します。		
一次試験合格発表	2025 年 9 月 20 日（土）19 時 00 分 発表場所：教育学研究科事務所 掲示板（16 号館 2 階） ※同時刻に教育学研究科ウェブサイト上でも発表		
二次試験（口述） 口述試験	2025 年 9 月 21 日（日） 集 合 時 間：9 時 45 分 試 験 開 始：10 時 00 分 試 験 会 場：早稲田キャンパス 16 号館等（予定） ※選考会場・控室は、試験日当日に会場にて掲出します。		
合格者発表	2025 年 9 月 25 日（木）10：00 教育学研究科ウェブサイトにも合格者受験番号表を掲載します。 https://www.waseda.jp/fedu/gedu/		
入学手続書類発送	2026 年 2 月上旬	2025 年 11 月上旬	
入学手続締切	①2026 年 2 月中旬～下旬（入学手続料納入・Web 入力） ②2026 年 3 月中旬（書類提出） 【国外出願者については、以下の通り一次～二次に分けて手続を行う。】 （一次）2025 年 12 月上旬（入学手続料納入） （二次）2026 年 2 月下旬（Web 入力・書類提出）		

【注1】出願審査申請期限とは、次の出願資格で出願を希望する方に行う「個別の入学資格審査」の申請期限のことです。

教育学研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した人と同等以上の学力があると認めた人で、入学の時点で 22 歳に達する者

従って、その他の出願資格（例：大学を卒業した（する見込みの）者等）で出願する方は、「入学資格審査」を受ける必要はありません。

Ⅱ. 受 験 要 領

1. 出願資格

入試 区分	出 願 資 格
一 般 入 試	以下の①～⑤のいずれかに該当する者。 ① 大学を卒業した者、および 2026 年 3 月までに卒業見込みの者 ② 大学改革支援・学位授与機構により、学士の学位を授与された者、および 2026 年 3 月までに授与される見込みのある者 ③ 外国において通常の課程による 16 年の学校教育を修了した者、および 2026 年 3 月までに修了見込みの者 ④ 外国の大学やその他の外国の学校において、修業年限が 3 年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者、または 2026 年 3 月までに授与される見込みのある者 ⑤ 文部科学大臣の指定した者 ⑥ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学卒業者と同等以上の学力があると認めた者で、入学の時点で 22 歳に達する者 注 1：英語教育専攻を志願する場合、出願締切日から遡って 2 年以内に実施された ・ TOEFL iBT 「<u>80 点以上</u>」 (MyBest®スコアも可) (TOEFL iBT Home Edition は原則不可) ・ IELTS Academic または IELTS for UKVI Academic 「<u>6.5 点以上</u>」 (Computer-delivered IELTS も可) のいずれかのスコアを有していること。 注 2：<u>外国において通常の課程による 16 年目の学校教育を修了および修了見込みの外国学生は、外国学生入試での受験となります。</u> 注 3：上記「⑥」に該当して出願しようとする者は、事前に出願資格の審査を行いますので本研究科事務所へ問合せください。 (事前の出願資格審査 書類提出締切：2025 年 6 月 27 日 (金) ※最終日消印有効)
特 別 選 考 制 度 入 試	次の A、B の資格を共に有する者。 A. 「一般入試」の出願資格を満たすこと。ただし、次の点にご注意ください。 ① 2026 年 3 月までに「大学卒業見込み」または「学士の学位取得見込み」の者は対象外。 ② 英語教育専攻を志願する場合、出願締切日から遡って 2 年以内に実施された ・ TOEFL iBT 「<u>80 点以上</u>」 (MyBest®スコアも可) (TOEFL iBT Home Edition は原則不可) ・ IELTS Academic または IELTS for UKVI Academic 「<u>6.5 点以上</u>」 (Computer-delivered IELTS も可) のいずれかのスコアを有している (*) こと。 *ただし、英語を媒介とするプログラム (EMI) で学士、あるいは修士の学位を取得している場合は例外とする。 *EMI であることが記載されている Certificate か、そうでない場合は EMI であることの証明 (手紙：推薦状ではない) を担当教員に書いてもらい、提出する。 B. 以下の (1) および (2) のいずれにも該当すること。 (1) 本課程入学までに、下記いずれかの職 (①・②・③の合算も可) において継続して 3 年以上の職務経験を有する者。 ① 学校教育法第 1 条に定める学校の専任教員 ② 社会教育機関の専任の職 ③ 教育行政機関の専任の職 ※いずれも専任に準ずる職を含む (2) 教育の研究・実践に関し相当の経験と業績を有する者。なお現職の場合は、下記「a」・「b」の条件を満たしうる者。 a. 初年度は、在職校等の勤務を離れて、就学に専念できること。 b. 2 年目は、初年度同様勤務を離れて指導を受けること。あるいは在職校等に復帰する場合は、勤務しながら週 1 回程度通学し指導を受けることが可能であること。 ※【現職教員等の学生の履修方法の特例】 1. 教育上特別に必要があると認められる場合には、特定の時間または時期において、適当な方法により授業または研究指導を行うことがある。 2. 上記の方法による履修を希望する学生は、入学志願の際にその旨を申し出なければならない。 3. 特例の適用を受けた学生は、第 1 年次は通常の形態による授業および研究指導を受け、第 2 年次は指導教員の指示に従って定期的に研究指導を受けなければならない。

外国学生入試

以下の①～③のいずれかに該当する者。

- ① 外国において通常の課程による 16 年の学校教育を修了した者、および 2026 年 3 月までに修了見込みの者
- ② 外国の大学やその他の外国の学校において、修業年限が 3 年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者、または 2026 年 3 月までに授与される見込みのある者
- ③ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学卒業者と同等以上の学力があると認めた者で、入学の時点で 22 歳に達する者

注 1：「外国において通常の課程による 16 年の学校教育を修了した者」とは、「日本国外の正規の学校教育における 16 年目の課程を修了した者」という意味です。16 年間教育を受けたかではなく、「16 年目の課程を修了しているかどうか」で判断します。

注 2：初等～高等教育までの正規の課程の年数が 16 年未満の国の課程を修了した方は、事前に学歴の審査を行います。“学歴確認フォーム”を下記のサイトからダウンロードし、必要事項を記入のうえ、本研究科までお問合せください。

- ・学歴確認フォーム ダウンロードサイト

<https://www.waseda.jp/inst/admission/en/graduate/japanese/>

- ・問合せ先

教育学研究科入試係：gse-admission@list.waseda.jp

注 3：外国籍の方であっても、日本の大学（学部または大学院）を正規に卒業・修了（見込みを含む）した者は、「外国学生」には該当しません。

注 4：日本語能力試験 1 級／N1 または日本留学試験「日本語」260 点以上のスコアを有していることが必要です（日本留学試験については、出願締切日から遡って 2 年以内に実施された試験のスコアに限ります）。また、スコアを外国語科目の得点に調整して利用します。

注 5：英語教育専攻志願者は、出願締切日から遡って 2 年以内に実施された

- ・ TOEFL iBT 「80 点以上」（MyBest®スコアも可）（TOEFL iBT Home Edition は原則不可）
- ・ IELTS Academic または IELTS for UKVI Academic 「6.5 点以上」（Computer-delivered IELTS も可）

のいずれかのスコアを有していること。

出願時に、本入試要項記載の出願資格を満たすために大学院入学資格取得見込の証明書を提出された方につきましては、入学手続き時に、その資格取得を証明する書類を提出してください。入学試験に合格されても、入学までにその資格取得の証明書を提出できない（大学院入学資格を満たすことができない）場合は、入学を認められませんので注意してください。

本学の教員は、本学の学籍を有することができませんので注意してください。ただし、規約上認められている場合もありますので、不明点がある場合は所属箇所の事務所を通じて本部までお問合せください。

2. 募集専攻・人員

専攻	修士課程募集人員（注）
学校教育専攻	30名以内
国語教育専攻	21名以内
英語教育専攻	21名以内
社会科教育専攻	27名以内
数学教育専攻	18名以内

（注）上記募集人員の3分の1程度は、特別選考制度入試による入学者の枠とします。

3. 出願期間・出願方法・出願書類提出先

入試区分	提出先	出 願 期 間・方 法
一 般 入 試	教育学研究科 事務所 (郵送に限る)	2025年7月24日(木)～8月4日(月) 出願はすべて 簡易書留速達郵便 による郵送 受付です。 出願期間最終日消印有効。
特別選考制度入試		
外国学生入試 (国内出願)		
外国学生入試 (国外出願)		2025年7月7日(月)～7月25日(金) 出願はすべて EMS 等による郵送受付となり、 出願期間最終日必着とします。

4. 出願上の注意

(全入試区分共通の注意事項)

- ・郵送する際、別ファイルの「志願票等送付用住所ラベル」に住所・氏名を記入し、封筒の宛名面に貼付のうえ送付してください。※外国学生入試の方は次ページ「外国学生入試対象者の注意事項」を参照してください。
- ・お住まいの地域や国によっては配達に時間を要するところがありますので、時間に余裕を持って送付するようにしてください。
- ・出願締切日を過ぎた書類は一切受け付けません。
- ・出願書類の到着の有無に関する問合せにはお答えできません。書類到着の確認は、郵便局の追跡サービス（国外出願の場合は **EMS** 等の追跡サービス等）を利用の上、確認を行ってください。
- ・出願書類に不備や不足書類があった場合は、受験資格を失うことがあります。必要書類が揃っているか十分に確認の上、出願をしてください。また本学から連絡があった時は速やかにその指示に従ってください。
- ・出願後に志願票に書かれた住所・電話番号・Eメールアドレス等を変更した場合は、速やかに本研究所事務所に連絡をしてください。志願票に書かれた情報を変更したことが原因で本学からの連絡が届かなかったとしても、本学は一切の責任を負いません。
- ・身体機能の障がいや疾病等により、受験・就学に際して配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、本研究所事務所にお問合せください。また、大きな病気やけがのため、受験および就学に支障をきたす恐れがある場合、あるいは出願後にそのような状態になった場合でも、速やかにお問合せください。

(外国学生入試対象者の注意事項)

- 外国学生の出願手続は、志願者の居住地によって「国内出願」と「国外出願」に区分が分かります。以下の定義により自身の出願区分を確認してください。「国内出願」「国外出願」はそれぞれ出願期間・出願方法等が異なりますので、十分にご注意ください。

	国内出願	国外出願
対象	出願時に日本国内に居住する者	出願時に日本国外に居住する者
資格確認	志願票に記載された「現住所」から判断します	

- 国内出願の方は、必ず所定の「志願票等送付用住所ラベル」を使用して送付してください。国外出願の方は、「志願票等送付用住所ラベル」の住所を国際宅配業者（EMS 等）のラベルに転記のうえ、送付してください。
- 国内出願者で、出願時に入学時以降まで有効な在留資格を有していても、個々の事情により、入学後の在留資格の更新・変更が許可されない場合があります（現在保持している在留資格の根拠となる活動を、正当な理由なく継続して3ヶ月以上行っていない場合など）。入学後の在留資格更新・変更の取得については、本学は一切保証できません。必ず出入国在留管理局に確認し、各自の責任において出願してください。
- 一度提出した書類・資料の返還は原則として行いません。ただし、再発行が不可能な書類に限り書類の返還を行います。希望する場合は必ず「提出書類返還依頼書」を記入し、出願書類と一緒に送付してください。「提出書類返還依頼書」が出願書類と一緒に送付されていない場合は、書類の返還は一切行いません。

5. 志願者情報 Web 登録

(1) 入力

志願者は必ず Web 上にて志願者情報の登録を行ってください。登録用のフォームは出願期間中、本研究科 Web サイトの本入学試験要項掲載ページにリンクを掲載します。

<https://www.waseda.jp/fedu/gedu/applicants/admission/>（教育学研究科＞受験生の方へ＞入学試験情報）

(2) 入力上の注意

- 原則として、志願者本人が入力してください。
- すべて入力後、最下段の「保存」を押してください。その後「申請確認：申請を保存してよろしいですか？」という画面が出ますので、「はい」を押すと登録確定となります（その後「保存しました」と表示されます）。
- フォームに入力した情報に誤りがあった場合などは、再度登録し直してください。
- 登録が完了すると、【MyWaseda】申請通知：早稲田大学大学院教育学研究科 修士課程入学試験 志願者情報登録」という件名のメールが入力したアドレス宛に自動送信されます。このメールを印刷し、出願書類として同封してください。
- 受信拒否を回避するため、携帯電話のキャリアメール以外（「Gmail」、「Yahoo!メール」等）を利用されることを推奨します。
- フォームでの登録後、自動送信メールが受信できない場合、以下の可能性が考えられます。
 - ①迷惑メールとして分類されている
 - ②入力したメールアドレスに誤りがある迷惑メールからも見つからない場合は、誤った入力が行われた可能性がありますので、最初からフォームの再入力を行ってください。提出書類と突合して、正規の登録内容を判断します。
- 登録されたメールアドレス宛に試験実施に関するご連絡等を行うことがありますので、出願から試験当日までの間、定期的に受信メールを確認してください。

6. 入学検定料 （入試区分ごとに、支払期間および支払方法が異なります）

入試区分	入学検定料支払い期間	入 学 検 定 料
一 般 入 試	7 月 2 4 日(木)～ 8 月 4 日(月)	3 0 , 0 0 0 円
特別選考制度入試		
外国学生入試（国内出願）		

日本国内からの検定料支払方法

- ① 入学検定料は最寄りのコンビニエンスストアで支払ってください。
- ② コンビニエンスストアでの支払いに際しては、事前にパソコンもしくは携帯電話等によりインターネット上の「入学検定料コンビニ支払いサイト」(<https://e-shiharai.net/>) にアクセスをして所定の申込手続を完了させる必要があります。
- ③ 支払い終了後、『入学検定料・選考料取扱明細書』の「収納証明書」部分を切り取り、『志願票No.2（様式－2）』の所定欄に貼り付けて提出してください。詳細は別紙「コンビニエンスストアでの入学検定料支払方法」を確認してください。
- ④ 支払いは、土日・祝日を問わず、24時間いつでも可能です。ただし、納入期間最終日の「Webサイトでの申込」は23：00まで、コンビニエンスストア店頭での支払手続は23：30までとなりますので注意してください。

※家族・知人が代理で手続をする場合でも、必ず志願者本人の情報を入力するようにしてください。

※コンビニエンスストアでの支払いが困難な方は、事前に本研究科まで連絡してください。

入試区分	入学検定料支払い期間	入 学 検 定 料
外国学生入試（国外出願）	7 月 1 日(火)～7 月 2 5 日(金)	3 0 , 0 0 0 円

日本国外からの検定料支払方法

下記の要領に従い、金融機関より海外送金してください。その際、銀行所定の海外送金申請書のコピーを出願書類に同封してください。

<海外送金要領>

送金種類	電信送金 (Telegraphic Transfer)
支払方法	通知払 (Advise and Pay)
振込銀行手数料	依頼人負担 (Payer's Responsibility)
円為替手数料	受取人負担 (Payee's Account)
送金額	入学検定料に円為替手数料、金融機関ごとの送金手数料を加えた金額 30,000 円 (検定料) + 2,500 円 (円為替手数料) + (各金融機関ごと) 送金手数料
送金目的	入学検定料 (Screening Fee)
送金先銀行名	三菱 UFJ 銀行 (MUFG Bank, Ltd.)
支店名	江戸川橋支店 (Edogawabashi Branch)
口座番号	0035967FHR ※口座番号欄には数字7文字とアルファベット3文字を記入してください。
受取人	早稲田大学 (Waseda University)
銀行住所	〒112-0014 東京都文京区関口 1-48-13 (1-48-13, Sekiguchi Bunkyo-ku Tokyo 1120014, Japan)
スウィフトコード	BOTKJPJT
備考	必要連絡事項 (Message to Payee, if any) には受験者本人の氏名 (Applicant's name) の前に "37GSE" を必ず記入してください。

出願書類および入学検定料の返還について

一度受理した書類およびお支払いいただいた入学検定料は、原則として返還いたしません。ただし、下記のケースに該当する場合は、入学検定料に限り返還いたします。該当する方は 2025 年 9 月 30 日（火）までに教育学研究科事務所（gse-admission@list.waseda.jp）までメールにてご連絡ください。

- ① 入学検定料を所定額より多く支払った。
- ② 入学検定料を支払ったが、出願書類は提出しなかった。
- ③ 入学検定料を支払ったが、出願締切後に出願書類を提出した。
- ④ 入学検定料を支払い、出願書類を提出したが、出願書類の不備や出願資格を満たしていない等の理由により、出願が受理されなかった。

なお、日本国外の金融機関口座へ入学検定料を返還する場合、返還に伴い発生する手数料等は志願者の負担となります

被災地の志願者に対する減免制度

本学では、被災地（災害救助法適用地域）の志願者に対して、受験・入学の機会をできるかぎり保障するため、被災の状況により、入学検定料、登録料（入学金相当額）、学費・諸会費の減免制度を用意しております。

2025 年 4 月 1 日（入学予定日の 1 年前）以降に災害救助法が適用された市区町村において被災された方で、減免を希望される方は、下記の入学センターWeb サイトをご覧のうえ申請してください。

【URL】<https://www.waseda.jp/inst/admission/others/exemption/>

7. 出願書類

出願の際に本学に提出した書類・資料、提供した情報等に偽造・虚偽記載・剽窃等があった場合は、不正行為とみなし、入学試験の結果を無効とすることがあります。なお、その場合も提出された書類・資料等および入学検定料は返還しません。

志望理由や研究計画書等は、本研究科に自分自身について説明する機会となりますので、ご自身で作成してください。生成 AI を使用してこれらの書類を作成し、自分で書いたものとして提出した場合、不正行為とみなされる可能性や、選考上の評価に影響を及ぼす可能性があります。

出願書類 記入上の注意

- (1) ペンまたはボールペン（黒）で記入してください。（鉛筆・フリクションペン等は不可）
- (2) 誤って記入した場合は、二本線で消し、訂正印を押印したうえで再度記入（できるだけ枠内）すること。修正液は使用しないでください。

※Word 文書（Docx ファイル）として提供されている書類については、所定の様式に直接入力したものを印刷し、提出することも可とします。

ただし、様式の枠線配置などは一切変更しないでください。（「A4」片面1枚で作成してください。）

凡例 「○」 → 必須提出 「△」 → 該当者のみ提出 「×」 → 提出不要

様式名	提出書類	一般	特別	外国
修士 様式-①	入学試験 志願票 No.1 ・年号は西暦で記入してください。 ・早稲田大学出身者の方は、学籍番号を記入してください。 （複数の学籍番号を持っている場合は、必ず最新のものを記入してください。） ・一般入試出願者（英語教育専攻以外）は必ず受験外国語を選択してください。	○	○	○

様式名	提出書類	一般	特別	外国
修士 様式-②	入学試験 志願票 No. 2 ・本学では、入学試験の円滑な実施と入学手続の必要上、合理的理由があると判断される必要最小限に限り、戸籍またはパスポート等の公的書類上の性別情報を収集しています。パスポート等の公的書類上の性別が男女のいずれでもない方は、出願に先立ち、本研究科までご連絡ください。性別情報が可否に影響を及ぼすことは一切ありません。 https://www.waseda.jp/inst/diversity/support/sexual-minority/ ・所定欄に氏名等を記入の上、様式-②に記載の注意事項に沿って、「入学検定料収納証明書」「写真」を糊付けしてください。	○	○	○
修士 様式-③ 1/2・2/2	数学教育専攻入学試験調査票【数学教育専攻志願者のみ提出】 ・文字数指定なし。ただし所定の様式（それぞれ「A4」片面1枚）内に収めること。	△	△	△
修士 様式-④	履歴書(特別選考制度入試用) ・年号は西暦で記入してください。	×	○	×
修士 様式-⑤	志望理由・研究計画書(一般入試、外国学生入試) 【数学教育専攻以外の志願者のみ提出】 ・文字数指定なし。ただし所定の様式（「A4」片面1枚）内に収めること。	△	×	△
修士 様式-⑥	研究計画書(特別選考制度入試用) ・文字数指定なし。ただし所定の様式（「A4」片面1枚）内に収めること。	×	○	×
修士 様式-⑦	受験承諾書 ・ <u>在職中</u> の特別選考制度入試受験者は、受験にあたり、事前に所属長（学校長等）からの受験承諾を得て、所属長に本様式を記入してもらってください。 （※入学時に退職予定の場合も、出願時に在職中の場合は提出必須です。）	×	△	×
原本	学部の卒業証明書または卒業見込証明書 ・「卒業（見込）」と「成績」が同一用紙で証明されている証明書でも結構です。 ・必ず証明書の原本を提出してください（コピーは不可）。 ・証明書は日本語または英語で書かれたものを提出してください。日本語または英語で発行できない場合は、翻訳文を作成し、翻訳文の内容が正しいことを証明する公証書（原本）とあわせて提出してください。 ・出願時に卒業（修了）見込の場合は、卒業（修了）見込証明書を提出し、合格後、入学手続を行う際に卒業（修了）証明書を必ず提出してください。入学試験に合格されても、入学手続までに卒業（修了）証明書を提出できない場合は、入学を認められませんので注意してください。 〔中国の大学を卒業した方（見込者を含む）は以下の指示に従ってください。〕 中国の大学を卒業した者、およびその見込の者は、大学発行の「卒業/修了（見込）証明書」の提出は不要です。その代替として、CHSI が発行する以下の認証書を、CSSD から教育学研究科事務所（gse-admission@list.waseda.jp）へ E メールで直送されるよう手配してください。 【卒業/修了者】 「Online Verification Report of Higher Education Qualification Certificate」 【卒業/修了見込者】 「Online Verification Report of Student Record」 CSSD から直接メールで届く英語版の認証書のみに有効とします。 必ず出願期間締切日までに本研究科へ届くよう、余裕を持って準備してください。	○	○	○

様式名	提出書類	一般	特別	外国
原本	学位取得証明書(見込証明書)〔中国の大学を卒業し学位を取得した方のみ提出〕 (中国の大学を卒業して学位が取得できなかった場合でも、通常の課程による16年の学校教育を修了していれば出願資格はあります)。 ・CHSIが発行する「Online Verification Report of Higher Education Degree Certificate (英語版)」を学位取得証明書として提出することを推奨します。CSSDから教育学研究科事務所(gse-admission@list.waseda.jp)へ出願締切日までにメールで直送されるよう手配してください。CSSDから直接メールで届く英語版の認証書のみ有効とします。 ・ただし、CSSDから本研究科への直送では出願締切日までの提出が難しい場合は、<u>日本語</u>または<u>英語</u>で書かれた、大学発行の学位取得証明書(原本)の提出を認めます。提出する証明書には学位番号の記載が必要です。記載がない場合は学位取得証明書とは別に、学位証書など(番号がわかるもの)のコピーを添えてください。	×	×	△
原本	学部の成績証明書 ただし、学部[※]に在学中の場合は前学年までの成績証明書 ・「卒業(見込)」と「成績」が同一用紙で証明されている証明書でも結構です。 ・必ず証明書の原本を提出してください(コピーは不可)。 ・証明書は<u>日本語</u>または<u>英語</u>で書かれたものを提出してください。日本語または英語で発行できない場合は、翻訳文を作成し、翻訳文の内容が正しいことを証明する公証書(原本)とあわせて提出してください。 ・成績証明書は、大学学部以上の全学期の成績が記載されたものを提出してください。 ・編入学している者は編入学前の学部の成績証明書も提出してください。 ・飛び級または繰り上げ卒業により、飛び級した学年、理由などが成績証明書に記載されていない場合は、それを証明する大学作成の書類を別途提出してください。 ・(外国学生のみ)休学・兵役等の期間があった場合は、その旨を証明する大学または公的機関発行の証明書を提出してください。 〔中国の大学を卒業/修了した方(見込者を含む)は以下の指示に従ってください。〕 ・中国の大学を卒業した方は、中国政府学歴認証センター(または中国政府指定学歴・学籍認証センター日本代理機構)が発行する「Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript」を「成績証明書」として提出することを推奨します。CSSDから教育学研究科事務所(gse-admission@list.waseda.jp)へ出願締切日までにメールで直送されるよう手配してください。CSSDから直接メールで届く英語版の認証書のみ有効とします。 ・ただし、CSSDから本研究科への直送では出願締切日までの提出が難しい場合は、大学発行の<u>日本語</u>または<u>英語</u>で書かれた成績証明書(原本)の提出を認めます。	○	○	○
原本	編入学前の学部の成績証明書 【編入学して学位を取得している場合のみ】	△	△	△
原本	改姓を証明できる公的証明書(戸籍抄本等) 【改姓により志願票と各種証明書の氏名が異なっている場合のみ】	△	△	△
原本	在職証明書または在職期間証明書 (資格と在職期間が明記されたもの) ・継続して3年以上の職務経験を有することを証明するものです。 ・在職期間が3年に満たない場合、他の勤務先の証明書類も提出すること。(連続していることが必要) ・専任に準ずる職にある方は、具体的な職務内容がわかる書類も提出してください。(雇用契約書など)	×	○	×

様式名	提出書類	一般	特別	外国
原本	英語能力証明書【英語教育専攻志願者のみ提出】 ・ Official Score Report (TOEFL) または ・ Test Report Form (IELTS) 出願締切日から遡って 2 年以内に実施された ・ TOEFL iBT 「80 点以上」 (MyBest®スコアも可) (TOEFL iBT Home Edition は原則不可) ・ IELTS Academic または IELTS for UKVI Academic 「6.5 点以上」 (Computer-delivered IELTS も可) のいずれかのスコアを有していることが必要です*。 * (特別選考制度入試のみ) ただし、英語を媒介とするプログラム (EMI) で学士、あるいは修士の学位を取得している場合は例外とする。 上記各スコア票が試験実施団体から<u>出願締切日までに大学へ直接送付される</u>ように、志願者が早めに依頼すること。6 週間程度かかることがあります。 ※Test Report Form (IELTS) の依頼時は、必ず簡易書留等の追跡できる形で送ってもらうよう、試験実施団体に依頼してください ○TOEFL 団体ウェブサイト https://www.ets.org/ Official Score Report (TOEFL) の送付に必要なコード <u>Institution Code : C394</u> ※ (注意) 早稲田大学でも複数の送付先コードがあります。必ず、上記コードを入力してください。 ○IELTS 団体ウェブサイト https://www.ielts.org/ Test Report Form (IELTS) 送付先は以下を記入してください 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学大学院教育学研究科事務所 入試係宛	△	△	△
コピー	英語能力スコア報告書【英語教育専攻志願者のみ提出】 ・ TOEFL iBT ・ IELTS Academic または IELTS for UKVI Academic いずれかのスコア報告 暫定的なスコア証明として、前項の「英語能力証明書」提出とは別に、手許にあるスコア報告のコピーまたは Web 上のスコア確認画面を印刷したもののいずれかを提出すること。	△	△	△
コピー	日本語能力証明書 以下の A または B のいずれかの方法で提出すること。 A 日本語能力試験 1 級／N1 の「合否結果通知書」もしくは「認定結果および成績に関する証明書」(「日本語能力認定書」は不可) の原本 1 部。 (コピー不可。試験実施年度は問いません) ※<u>2025 年度第 1 回の日本語能力試験を受験した者に限り、同試験の受験票のコピーを提出することで証明書を後日追加提出することを認めます。</u>なお、以下の期日までに提出できない場合は出願を受け付けません。 追加提出締切日：<u>2025 年 9 月 5 日 (金) 必着</u> B 日本留学試験「日本語」260 点以上の「成績確認書」(EJU オンラインから印刷)、および受験票のコピー 各 1 部。 (出願締切日から遡って 2 年以内に実施された試験のスコアに限りです) ※日本留学試験「日本語」は、聴解・聴読解 (200 点)、読解 (200 点) の計 400 点のうち <u>260 点以上</u>となります。記述問題は含まれません。	×	×	○
修士 様式-⑧	提出書類返還依頼書 ・ 再発行が可能な書類の返還は一切行いません。(公証書、成績証明書、推薦状など)	×	×	△

様式名	提出書類	一般	特別	外国
修士 様式-⑨	推薦状【学校教育専攻志願者（外国学生）のみ提出】 ・所定様式のを推奨しますが、所定様式以外の推薦状でも出願は可能です。推薦状は、2024年4月以降に発行されたもののみ有効になります。推薦状は必ず推薦者による厳封がされたものを提出してください。厳封が無いものは原則無効といたします。また、推薦状は日本語または英語で作成してください。それ以外の言語で作成する場合は日本語または英語訳を作成し、推薦状の原本と一緒に提出してください。特に公証は必要ありません。 ・推薦者による厳封とは、封をした箇所への推薦者の署名や捺印があり、推薦者によって封が閉じられたことが明瞭である状態をいいます。「厳封」は、封筒のふたをただ糊付けしたり、厳重にテープ等で貼り付けるだけでは足りません。また、開封された場合は厳封扱いとなりません。推薦者によって厳封された推薦状をそのまま本研教科あてに提出してください。	×	×	△
修士 様式-⑩	経費負担計画書 ・所定の用紙に、本学に留学する間の総費用（2年分の学費及び生活費）をどのように負担するのかについて、日本語または英語で記入してください。 ※出願者本人の署名を忘れないようにしてください。 ・経費負担計画書の「政府またはその他財団（Government/sponsoring agency）」の欄に記入された方は、給付金額および給付期間を明示した奨学金の給付に関する証明書を提出してください。	×	×	○
コピー	「在留カード」のコピー（表・裏両面）、身分証明書（パスポート）のコピー【入試区分によらず外国籍の出願者は提出必須】 ・「在留カード」は、表・裏両面のコピーを提出してください。これに加えて、身分証明書（パスポート）の写真が掲載されたページも提出してください（有効期限に注意をしてください）。<u>日本での在留資格を有していない場合は、パスポートのコピーのみ提出してください。</u>	△	△	○
コピー	入学検定料 海外送金申請書のコピー ・国外出願者で、海外送金により検定料を振り込んだ場合は提出	×	×	△
原本	翻訳公証書	×	×	△

〔早稲田大学出身の方へ〕

- ・本学発行の各種証明書を提出する場合、紙媒体の証明書（原本）・デジタル証明書（原本）のいずれかを提出してください。早稲田大学のデジタル証明書は提出先への直送を原則として、紙での複製・デジタルでの複製を禁止しています。
- ・本学発行のデジタル証明書を利用する場合、以下のとおり申請ください。

提出先名称：早稲田大学大学院教育学研究科

提出先メールアドレス：gse-admission@list.waseda.jp

8. 受験票の送付

- ① 出願受付後、志願票 No.1 に記載されたメールアドレス宛に受験票を送付します。
- ② 試験日間近になっても受験票が届かない場合は、本研教科事務所までお問合せください。
- ③ 受験票は、入学後、学生証の交付時に必要となりますので、大切に保管してください。

9. 試験科目・試験方法

一般入試・外国学生入試

※外国学生入試受験者は「外国語」の筆記試験は免除されます。ただし、日本語能力試験・日本留学試験「日本語」のスコアを、外国語科目の得点に調整して利用します。

※英語教育専攻は「外国語」の筆記試験はありません。

【辞書・事典・資料類の持ち込みは全て不可とします】

専攻	第 1 次 試 験			第 2 次 試 験
	9 月 20 日(土) 9:00~11:00 (集合 8:45)		9 月 20 日(土) 11:40~12:40 (集合 11:25)	9 月 21 日(日) 10:00~ (集合 9:45)
	専 門 科 目			口 述
	共通	選択	外 国 語	
学校教育専攻	教育学	◇教育学 ◇社会教育学 ◇教育心理学 ◇初等教育学 の中から、受けようとする研究指導に該当する問題を選択すること。	英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語のうち、母語以外の 1 カ国語選択	主として専攻にかかわる分野についてのこれまでの研究課題、および研究計画について ※英語教育専攻については、状況により英語での口述もありうる。
国語教育専攻	現代および古典の文章の読解	◇国語科教育 ◇日本語学 ◇古典文学 ◇中国古典文学 ◇近代文学 の中から、受けようとする研究指導に該当する問題を選択すること。	英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語のうち、母語以外の 1 カ国語選択	
英語教育専攻	英語教育英語	◇英語科教育 ◇英語学 ◇イギリス文学 ◇アメリカ文学 の中から、受けようとする研究指導に該当する問題を選択すること。	—	
社会科教育専攻	社会科教育	◇歴史学 ◇地理学 ◇政治学 ◇経済学 ◇社会学 ◇メディア・コミュニケーション学 の中から、受けようとする研究指導に該当する問題を選択すること。 なお、社会科教育の研究指導を受けようとする人は、上記の科目の中から任意の 1 問を選択すること。	英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語のうち、母語以外の 1 カ国語選択	
数学教育専攻	線型代数 微分積分	◇数学科教育 ◇代数学 ◇解析学 ◇幾何学 ◇情報数学 ◇トポロジー の中から、任意の 2 問を選択すること。	英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語のうち、母語以外の 1 カ国語選択	

【英語教育専攻を除く一般入試出願者：選択する外国語は、出願時に志願票 No.1 の受験外国語欄に記入してください】

特別選考制度入試

【辞書・事典・資料類の持ち込みは全て不可とします】

専 攻	第 1 次 試 験	第 2 次 試 験
	9 月 20 日（土） 9:00～10:30（集合 8：45）	9 月 21 日（日） 10:00～（集合 9：45）
学校教育専攻	小論文	主として専攻にかかわる分野についてのこれまでの研究課題および研究計画について口述試験を行います。 ※英語教育専攻については、状況により英語での口述もありうる。
国語教育専攻		
英語教育専攻		
社会科教育専攻		
数学教育専攻		

10. 試験期日および合格者発表日

入試区分	第 1 次 試 験		第 2 次 試 験	
	試験日	発表日	試験日	発表日
一 般 入 試	9 月 20 日(土)	9 月 20 日(土) 【注1】	9 月 21 日(日)	9 月 25 日(木)
外国学生入試				
特別選考制度入試	9 月 20 日(土)	— 【注2】		

【注1】「一般入試・外国学生入試」の第2次試験は、第1次試験合格者のみ受験することができます。

【注2】「特別選考制度入試」は第1次試験合格者発表を行いません。

第1次試験受験者は必ず第2次試験も受験してください。

11. 試験会場

入試区分	試験会場
一 般 入 試	早稲田キャンパス 16号館等（予定） 第1次試験・第2次試験ともに、試験教室は当日16号館2階掲示板にて掲出します。
特別選考制度入試	
外国学生入試	

12. 合格者発表場所および時間

入試区分	発表場所・時間	
	第1次試験	第2次試験
一 般 入 試	- 本研究科事務所掲示板(16号館2階)に19:00発表 - 同時刻に本研究科ウェブサイト上に発表 https://www.waseda.jp/fedu/gedu/	- 合格者発表日の10:00に教育学研究科ウェブサイトにも合格者受験番号表を掲載します。 https://www.waseda.jp/fedu/gedu/ ※最終合格者には合格証明書および入学手続きに係る書類を送付します。なお、不合格者には書類は何も送付されません。
外国学生入試		
特 別 選 考 制 度 入 試	—	※可否に関する問合せには応じません。

13. 受験上の注意事項等について

(1) 受験上の注意

- ① 受験生は各科目の試験開始 15 分前には試験場に入場してください。
- ② 試験場には受験票・筆記具を持参し、受験票は机の上に置いてください。
- ③ 筆記具は黒（HB）の鉛筆またはシャープペンシルとします。
- ④ 第 1 次試験日の第 1 時限目試験開始後 20 分を経過してからの入場は一切認めません。
- ⑤ 第 2 次試験日の試験開始後 20 分を経過してからの入場は一切認めません。
- ⑥ 試験教室に時計は設置していませんので、必ず各自で持参してください。
- ⑦ 学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、麻疹、風疹等）に罹患し治癒していない場合、他の受験生や監督員等への感染の恐れがあるため、受験をご遠慮ください。
- ⑧ ⑦に該当しない場合でも、試験当日までに発熱等の症状がある場合は、かかりつけ医等に相談のうえ、当日の受験を見合わせる等、その指示に従ってください。
- ⑨ ⑦⑧により欠席した場合でも、本学が特別な対応を公表した場合を除いて、追試験の実施や検定料の返還は行いません。
- ⑩ 受験に際しては 1 週間程度前から検温を行うなど、体調管理を徹底してください。
- ⑪ 入学試験会場での新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等への感染を防ぐため、必要に応じて各自の判断でマスクを用意、着用してください。なお、写真照合の際など、一時的にマスクを外すことを求めることがあります。
- ⑫ 来場後、体調が優れない場合や異変を感じる場合は、早めに申し出てください。
- ⑬ 試験当日は救護所に医師が待機しており、診察を受けることが可能ですので、必要に応じてご利用ください。試験中に体調が悪くなった場合には、その旨を監督員に速やかに申し出てください。また、体調不良が疑われる受験者に対して、監督員が救護所での診察を促す場合もあります。ただし、移動や診察等にかかる試験時間の確保・延長はありませんので、注意してください。
- ⑭ 追加の情報がある場合は、研究科 Web サイト (<https://www.waseda.jp/fedu/gedu/>) にてお知らせします。

試験時間中に使用を認めない物品の一例を以下に示します。

物品	備考
通信機能のある電子機器（携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ、スマートグラス等）	時計としての使用も認めません。必ず電源を切って、かばんにしまってください。 <u>試験時間中にかばんの中にしまっていなかった場合には、受験者の故意・過失に関わらず、その電源が切られている状態であっても、原則として不正行為とみなします。</u>
その他通信機能のない電子機器（電卓・電子辞書・音楽プレーヤー・IC レコーダー・イヤホン等）	必ず電源を切って、かばんにしまってください。
耳栓	試験監督員の指示が聞こえない可能性があるので使用を認めません。
飲食物	ペットボトル飲料、飴、ガム等を含みます
鉛筆・シャープペンシル以外の筆記用具（ボールペン、蛍光ペン、赤ペン等）、筆箱、辞書	
帽子等	フードの着用も認めません。

(2) 不正行為について

早稲田大学では、入学試験を厳正に実施し、全ての受験者が公平・公正に受験できるよう、以下の注意事項を定めています。

早稲田大学入学試験の受験に際しては、この注意事項を熟読のうえ、真剣な態度で試験に臨んでください。

1. 出願の際に本学に提出した書類・資料、提供した情報等に偽造・虚偽記載・剽窃等があった場合は、不正行為となることがあります。

2. 次のことをすると不正行為となることがあります。

- ① カンニングをすること（試験時間中にカンニングペーパー・参考書等を隠し持つ、使用する、他の受験者の答案等を見る、他の人から答えを教わる、身体、物品、机などにメモをする、メモを見るなど）。
- ② 筆記試験において、試験中に使用を認められていない物品を使用すること（机上に置くこと、身に付けることを含む）。
- ③ 筆記試験において、「試験開始です。」の指示の前に、問題冊子・解答用紙に触れること（冊子を開く、解答を始める、裏面・余白などに書き込みを行うなど）。
- ④ 筆記試験において、「試験終了です。筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにしてください。」の指示に従わず、筆記用具を持っていたり解答を続けたりすること。
- ⑤ 試験時間中に、答えを教えるなど他の受験者を利するような行為をすること。
- ⑥ 試験時間中に携帯電話等を身に付けること、使用すること。
- ⑦ 試験時間中に携帯電話等や時計の音（着信・アラーム・振動音など）を鳴らすこと。
- ⑧ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- ⑨ 試験場において試験監督員等の指示に従わないこと。
- ⑩ 志願者以外のものが志願者本人になりすまして試験を受けること。
- ⑪ 解答用紙を持ち帰ること。
- ⑫ その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

3. 不正行為の疑いがある場合、次のような対応をとることがあります。これらに応じない場合、不正行為を自認したものとみなします。

- ・試験監督員等が注意をする、または事情を聴くこと。
- ・別室または別席での受験を求めること。
- ・本学に提出された書類・資料・論文および提供された情報等（「本提出書類等」といいます。）につき、その真正性等について、本学が発行元・提供元または論文審査機関等に対して、本提出書類等を提供して問合せをすること。志願者は本提出書類等を本学に提出または提供したことをもって、本学がこの問合せを行うことに同意したものとします。

4. 不正行為と認められた場合、次のような対応をとることがあります。

- ・当該年度における本学の全ての入学試験の受験を認めないこと（入学検定料は返還しない）。
- ・当該年度における本学の全ての入学試験の結果を無効とすること。

なお、入学後に不正行為と認められた場合は、本学規程に基づき入学取消とします。

大学が極めて悪質かつ重大であると判断した不正行為については、警察への通報や不正行為者の在籍（出身）校・保護者等への報告を行う場合があります。

（3）受験環境について

◆ 可能な限り公平・静粛な受験環境の確保に努めますが、やむを得ず以下のような対応をとることがあります。

- ① 生活騒音（航空機・自動車・風雨・換気・空調の音、周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音、携帯電話等の鳴動など）が発生した場合でも、原則として特別な措置は行いません。
- ② 試験中に携帯電話や時計等の音・振動などが発生し、発生源のかばんなどが特定できた場合、持ち主の同意なく監督員が試験場外に持ち出し、鳴動を停止させ、試験本部で保管すること、あるいはかばんの中から携帯電話・時計等を取り出し、鳴動停止の操作をすることがあります。
- ③ 隣席の受験者の手洗いや、体調不良による入退室のため、監督員の指示により席を立っていただくことがあります。その場合でも、原則として試験時間の延長等特別な措置は行いません。
- ④ 机、椅子、空調、音響設備等の試験教室による違いは一切考慮しません。
- ⑤ 他の受験者が迷惑と感じる行為がある場合、別室あるいは別席での受験を求めることがあります。

◆ 不可抗力による事故等について

台風、地震、洪水、津波等の自然災害または火災、停電、その他不可抗力による事故等や交通機関の乱れが発生した場合、試験開始時刻および終了時刻の繰下げ、試験の延期等の対応措置をとることがあります。ただし、それに伴う受験者の不便、費用、その他の個人的損害については一切責任を負いません。

Ⅲ. 入 学 手 続

1. 手続書類の交付

入試区分	書類交付方法
一 般 入 試	2026 年 2 月上旬に、志願票に記載されたメールアドレスへ送付します。
特別選考制度入試	
外国学生入試（国内出願）	
外国学生入試（国外出願）	2025 年 11 月上旬に、志願票に記載されたメールアドレスへ送付します。

2. 入学手続期間・方法

所定の入学金、学費・諸会費を振り込んだうえで、以下締切日までに入学手続書類を提出してください。
詳細は入学手続書類交付時にお知らせします。

入試区分	入学手続締切日
一 般 入 試	<u>入学手続料納入／Web 入学手続締切：2026 年 2 月中旬</u> <u>入学手続書類 提出締切：2026 年 3 月中旬</u>
特別選考制度入試	
外国学生入試（国内出願）	
外国学生入試（国外出願）	<u>入学手続料納入締切：2025 年 12 月上旬</u> <u>Web 入学手続／入学手続書類 提出締切：2026 年 2 月下旬</u>

3. 入学手続に必要な書類【ご参考】

- ・「住民票の写し」
- ・「卒業・成績・学位取得証明書等」（出願時に、見込証明書を提出した合格者）

※受験ポータルサイト「UCARO」による Web 入学手続を行います。

詳細は、合格者宛に送付する「入学手続の手引き」を参照してください。

※その他必要とする書類は「入学手続の手引き」にてお知らせします。

（※）在留資格認定証明書申請について

本学へ入学を許可された外国籍学生は、在留資格「留学」を取得することができます。日本に入国するため、在留資格を申請するには、まず日本国内の法務省出入国在留管理局に「在留資格認定証明書」を申請する必要があります。早稲田大学では入学手続を完了した国外出願の外国籍学生に限り、本人に代わって出入国在留管理局に「在留資格認定証明書」の代理申請を行います。代理申請後、「在留資格認定証明書」が出入国在留管理局より早稲田大学に交付されましたら、早稲田大学から申請者に郵送いたします。

「在留資格認定証明書」を受け取った後は、パスポートとともに日本大使館、領事館で「留学」ビザ（査証）を申請してください。「在留資格認定証明書」の交付には 1～2 ヶ月の時間を要します。

4. 入学手続に必要な入学金・学費・諸会費【ご参考】

2026 年度入学者 入学金・学費・諸会費

(単位：円)

専 攻	納入期	入学金	学 費		諸会費		合 計	年度 納入額
			授業料	演習料	学生健康増進 互助会費	教育 会費		
学校教育専攻	入学時 (春学期)	300,000	311,000	1,500	1,500	250	614,250	928,500
国語教育専攻	秋学期	—	311,000	1,500	1,500	250	314,250	
英語教育専攻								
社会科教育専攻								
数学教育専攻	入学時 (春学期)	300,000	486,500	—	1,500	250	788,250	1,276,500
	秋学期	—	486,500	—	1,500	250	488,250	

(注意) 1. 本学の学部、大学院、専攻科の卒業、修了または退学者が再度本学に入学する場合、入学金が免除されます。詳細については、合格者に送付される「入学手続の手引き」をご参照ください。

2. 第2年度の授業料・演習料・学生健康増進互助会費・教育会費は次のとおりです。

専 攻	学期	学 費		諸会費		合 計	年度 納入額
		授業料	演習料	学生健康増進 互助会費	教育 会費		
学校教育専攻	春学期	461,000	1,500	1,500	250	464,250	928,500
国語教育専攻	秋学期	461,000	1,500	1,500	250	464,250	
英語教育専攻							
社会科教育専攻							
数学教育専攻	春学期	636,500	—	1,500	250	638,250	1,276,500
	秋学期	636,500	—	1,500	250	638,250	

3. 実験演習を伴う下記科目を受講する場合は実験演習料を別途納めなければなりません。(予定)

学校教育専攻 初等教育学演習(河村)、特別支援教育学演習、臨床心理学演習、教育評価・測定演習、障害・神経心理学演習、学校心理学演習、発達・教育心理学演習、社会心理学演習 15,000 円
公認心理師心理実践実習 1 7,500 円、公認心理師心理実践実習 2 12,500 円
社会科教育専攻 社会科教育研究指導(池)、地理学研究指導(久保、箸本、山内)10,000 円
共通選択科目 教育工学及び実習 2,000 円

4. 演習料、実験演習料、諸会費は改定されることがあります。

5. 標準修業年限最終学年の最終学期に、校友会費(40,000 円)が加算されます。ただし、本学卒業生(校友)で校友会費(40,000 円)を納入済の方は除きます。

一度提出した書類および納入した入学金、学費・諸会費(春学期分)は、原則として返還しません。

ただし、やむを得ない事情により入学を辞退する場合や、入学までに入学資格を満たさなかった場合には、学費・諸会費(春学期分)のみ返還の対象となります。また、複数の研究科から入学を許可された場合、本人からの申し出により、既に納入した入学金、学費・諸会費(春学期分)を入学希望研究科に振り替えることができます(入学手続期間が全く重ならない研究科間に限られます)。手続方法等、詳細については、合格者に送付される「入学手続の手引き」をご参照ください。

5. 科目等履修生制度(教職・学芸員)について

本学教育学部には、教育職員免許状(教員免許状)または博物館学芸員資格取得に必要な単位を修得するための科目等履修生制度があります。本制度に出願せずに、大学院生が本学の学部教職課程および博物館学芸員課程を履修することはできません。同制度の出願資格等の詳細については 12 月上旬頃に教育学部 WEB サイト(以下 URL/QR コード)に募集日程等を掲載しますので、そちらをご確認ください。



6. 外国学生（外国籍）の方へ

在留資格についての Web サイト : <http://www.cie-waseda.jp/visastatus/jp/index.html>

在留資格「留学」の取得について

早稲田大学への入学を許可された外国学生は、在留資格「留学」を申請することができます。「留学」の在留資格を有する学生は、外国人留学生授業料減免や留学生対象奨学金を申請することができます。**「留学」以外の在留資格の場合は、上記のような留学生対象の各種補助制度は利用できませんのでご了承ください。**

「短期滞在」の在留資格で大学に在籍することはできませんので注意してください。以下の(1)～(6)をよく読んで、いずれかに該当する方は在留期間更新や在留資格変更、在留資格認定証明書交付申請など必要な在留手続を行ってください。**在留手続を行うには振込を完了していることが必要です。**手続に「入学許可書」が必要な場合は、振込を完了した後、教育学研究科事務所に発行を依頼してください。

(1) 「留学」の在留資格を有している場合

現時点ですでに「留学」の在留資格を有している場合は、必要に応じて「在留期間更新許可申請」を行ってください。手続に関する詳細は、早稲田大学留学センターの在留資格のWebサイト内、「入学前の方へ」の [「留学」の在留資格を持っている方](#) を参照してください。

(2) 「短期滞在」の在留資格を有している場合

現時点で「短期滞在」の在留資格を有している場合は、原則として一度国外へ出て「留学」の在留資格を申請する必要があります。「留学」の在留資格の申請方法については、**「(4) 在留資格を有していない場合」**を参照してください。

(3) 上記以外の在留資格を有している場合

現在の在留資格に該当する活動が終わる場合は、「留学」の在留資格に変更が必要です。「家族滞在」など、状態が変わらない場合は必要に応じて在留資格を変更してください。手続に関する詳細は、早稲田大学留学センターの在留資格のWebサイト内、「入学前の方へ」の [「「留学」以外の在留資格を持っている方」](#) を参照してください。

【注】在留期間更新許可申請および在留資格変更許可申請には、早稲田大学の押印のある書類が必要です。出入国在留管理局に申請する前に、申請書、入学許可書およびその他申請に必要な書類を大学に提出する必要がありますので注意してください。

(4) 在留資格を有していない場合

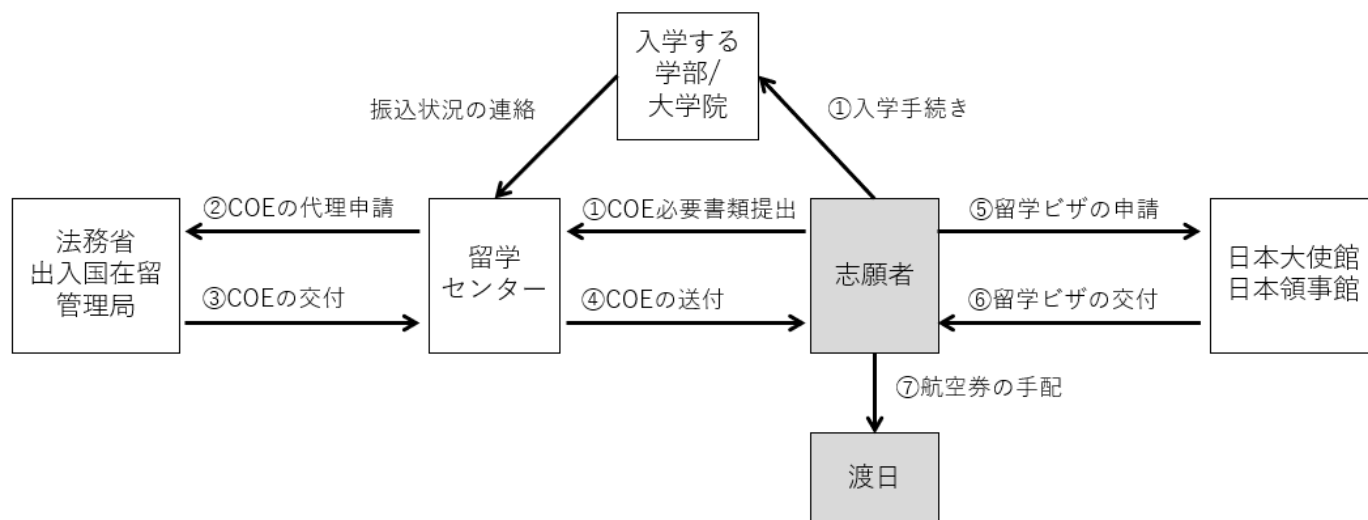
在留資格を申請するには、まず日本国内の出入国在留管理局に「在留資格認定証明書」(Certificate of Eligibility=COE)を申請する必要があります。早稲田大学では**入学手続を完了した国外居住の外国籍学生に限り**、本人に代わって出入国在留管理局にCOEの代理申請を行います。**必要書類を2025年12月5日(金)まで(必着)に、書留便(国際スピード郵便等)で早稲田大学留学センターへ送付してください。**代理申請後、COEが出入国在留管理局より交付され早稲田大学に送付されましたら、早稲田大学留学センターから申請者に送ります。COEを受け取った後は、パスポートとともに持参し、国籍を有する国または居住国の日本大使館、領事館で「留学」ビザ(査証)を申請してください。COEの有効期間は**3か月**です。有効期間内にビザを取得し渡日する必要があります。出入国在留管理局での審査には2か月程度を要しますので、申請が入学直前にならないよう注意してください。

【注】**代理申請は、振込を完了しないと行いません。**希望者は、すみやかに振込を済ませ、早急に手続を行ってください。

【注】代理申請に必要な書類と送付先については20ページの「在留資格認定証明書代理申請依頼書」をご覧ください。

【留学ビザ取得までの流れ（①→⑦）】

- ※ 留学ビザ交付にかかる日数は大使館、領事館によって異なり、場合によっては3週間ほど要します。
- ※ 留学センターにCOE申請書類を提出後、申請予定の日本大使館・領事館へ連絡して、おおよその所要日数を把握しておいてください。



（５） 在留資格の取得、変更（自己申請）

〈査証免除／短期滞在の資格で入国している場合〉

査証免除／短期滞在（観光、商用、知人・親族訪問等90日以内の滞在で報酬を得る活動をしていない場合）で入国した場合、原則として一度出国し、国籍を有する国または居住国の日本大使館・領事館でCOEを提出し、留学ビザを取得してから再入国してください。しかしながら、入学試験日が年度末（2月末、3月）でCOEの交付が遅く、新学期前に帰国が難しい場合は、COEが発行されたら、出入国在留管理局で資格変更許可申請を行うことは可能です。ただし、例外的な申請となりますので、在留資格の変更が許可されない場合もあります。在留資格審査は出入国在留管理局が行うため、審査の期間や結果について、本学は一切責任を負いません。

【注】30日以内の短期滞在の資格の場合、日本での資格変更はできませんので、一度出国し、国籍を有する国または居住国の日本大使館・領事館でCOEを提出し、留学ビザを取得してから再入国してください。

（６） その他注意事項

- ・早稲田大学留学センターが代理申請を行う在留資格は「留学」のみです。その他の在留資格を申請する場合は、自身で出入国在留管理局に申請してください。
- ・必要に応じて、出入国在留管理局から追加書類を要求されることがあります。
- ・事情により早稲田大学への入学を辞退する場合は、至急留学センターにお知らせください。また、他大学にも合格した場合、COEの交付申請が重複しないように注意してください。重複している場合、COEは交付されません。
- ・重国籍者で日本国籍を有する場合は、COEを申請できません。
- ・在留資格審査は出入国在留管理局が行うため、交付が遅れる場合や不許可となった場合、航空券の違約金等、本学は一切の責任を負いません。渡航手配は慎重に行ってください。
- ・在留資格「留学」の手続に関しては早稲田大学留学センター（E-mail: cie-zairyu@list.waseda.jp）へ問合せってください。

＜在留資格認定証明書代理申請依頼書＞

◎下記書類をすべて同封のうえ、書留便(国際スピード郵便等)を利用して早稲田大学留学センターへ送付してください。

【在留資格認定証明書の申請に必要な書類】 * 同封した書類に☑チェックをしてください。

☐ ① [在留資格認定証明書交付申請書](#) (3 ページ。6ヵ月以内に撮影した顔写真 1 枚添付)

[記入例](#)

☐ ② [各種確認書](#) ※記入例を必ず確認し、2 番以外を書いてください。(2 番は大学が記入します。)

[記入例](#)

☐ ③ パスポートのコピー (顔写真のページ)

☐ ④ [経費支弁書](#) (本人以外の方が経費を負担する場合)

☐ ⑤ 経費支弁に関する書類

1	本人が経費を負担する場合	預金残高証明書※1 (本人口座)
2	奨学金を受給する場合	奨学金受給証明書 ※2
3	本人以外が経費を負担する場合	預金残高証明書※1 (経費負担者の口座) および経費支弁書

※1 預金残高証明書: 口座名義人名、銀行名、日付、預金残高が確認できるもの。

預金残高の目安: 少なくとも半年分の学費と生活費の合計額を満たしていること。

(預金残高証明書の通貨が日本円以外の場合は留学センターで日本円に換算して確認します。)

・生活費 (住居費を含む): 1 か月あたり 12 万円程度。

・学費: 所属の学部・研究科による。

日本語・英語以外の言語の場合は日本語訳または英訳を添付すること (翻訳公証は不要)。

※2 奨学金受給証明書

月額分が生活費と学費の月額分に満たない場合は、その不足分の補填を証明しうる預金残高証明書等もあわせて提出してください。

☐ ⑥ 在留資格認定証明書代理申請依頼書 (本様式)

申請書類送付締切日

2025/12/5 (金) 【郵送必着】

※「在留資格認定証明書」の審査には 2-3 か月を要するため、締切日にかかわらず、入学金・学費振込を速やかに完了し、早めに申請することを推奨します。

宛先宛先 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-7-14-4F 早稲田大学留学センター「在留資格代理申請」係

(英字) Student Visa Section, Center for International Education, Waseda University

1-7-14-4F Nishi-Waseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0051, Japan

TEL: 03-3203-9806

問合せ先 cie-zairyu@list.waseda.jp

氏名 (英字表記)	
住所 (英字表記)	
電話番号	
E メールアドレス	COE は電子交付となり E メールで送られます。変更があった場合は直ちに連絡してください。
入学予定学部/研究科	
受験番号	

7. 特定国からの志願者に対する検定料免除措置制度

以下の1. に掲げる条件に合致する出願者は、本人からの申請に応じて入学検定料を免除します。

1. 適用条件

文末に記載の対象国に居住し、かつ対象国の国籍を有する者。

*居住国と国籍は同一の国である必要はありません。

*重国籍の場合は、いずれの国籍も前項の国に該当している必要があります。

2. 免除申請手続

出願書類として提出を求めている入学検定料支払証明書の代わりに以下の書類を提出してください。

1) 検定料免除措置申請書（所定様式）

2) パスポートのコピー（本人に関する記載事項の全ての欄）

3. 注意

1) 出願期間終了後の申請はいかなる理由でも受け付けません。

2) 本免除申請をする場合は、検定料を支払う必要はありません。誤って支払ってしまった場合、入学検定料の返還は行いませんのでご注意ください。

3) 万が一、申請者が本免除措置の対象とならない場合や、虚偽の申請があった場合は、検定料は免除になりませんのでご注意ください。

[対象国*]

アフガニスタン、アンゴラ、バングラデシュ、ベナン、ブルキナファソ、ブルンジ、カンボジア、中央アフリカ、チャド、コモロ、朝鮮民主主義人民共和国、コンゴ民主共和国、ジブチ、エリトリア、エチオピア、ガンビア、ギニア、ギニアビサウ、ハイチ、キリバス、ラオス、レソト、リベリア、マダガスカル、マラウイ、マリ、モーリタニア、モザンビーク、ミャンマー、ネパール、ニジェール、ルワンダ、セネガル、シエラレオネ、ソロモン諸島、ソマリア、南スーダン共和国、スーダン、シリア・アラブ共和国、タンザニア、東ティモール、トーゴ、ツバル、ウガンダ、イエメン、ザンビア

*OECD/DACが発行するODA受給国リストに掲載される「Least Developed Countries」「Low Income Countries which are not LDCs」の認定国

8. 提携金融機関（オリコ・楽天銀行）による「早稲田大学学費ローン（入学時）」

提携金融機関（オリコ・楽天銀行）による 「早稲田大学学費ローン（入学時）」

本学には、(株)オリエントコーポレーション（以下オリコ）、楽天銀行(株)と提携した「早稲田大学学費ローン制度」があり、入学時納入金に利用することができます。

本学費ローン利用にあたっては、自己責任のもと、申込期日や手続期日等の日程に注意し手続をしてください。なお、審査結果により、利用できない場合があります。

■学費ローン（入学時）の概要

対象者	本学入学予定者の保護者、および入学予定者本人（満 20 歳以上） ※外国人留学生は利用できません。 ※審査結果により、利用できない場合があります。
対象費用	入学時の大学宛納入金額（登録料（入学金相当額）および学費等（春学期分））
分割払手数料率 （実質年率）	提携金融機関により異なります。
入金方法	利用金額は金融機関から本学へ直接入金されます。※利用者への入金はありません。

■利用手順

早稲田大学奨学課のホームページ（<https://www.waseda.jp/inst/scholarship/>）に、**学費ローンのインターネット申込用ページ**を公開しています。申込期日・申込方法・手続等の詳細はこちらをご覧ください。

■返済方法

本学費ローン利用の翌月より、指定口座から自動振替されます。返済方式は提携金融機関によって異なります。

■問合せ先

株式会社オリエントコーポレーション 学費サポートデスク

（営業時間 9：30～17：30 土日・祝日を除く）

〒102-8503 東京都千代田区麹町 5 丁目 2 番地 1 Tel. 0120-517-325 Fax. 052-231-3911

楽天銀行株式会社 教育ローン専用ダイヤル

（受付時間 平日 9：00～20：30 土日・祝日 10:00～17:30）

〒108-0075 東京都港区港南 2-16-15 NBF 品川タワー Tel. 0120-61-6910

※必要書類の送付は原則スマートフォンアプリでの提出となります。郵送も可。

IV. 募集研究指導一覧・研究指導の内容

1. 募集研究指導一覧

※募集する研究指導は変更になる場合があります。出願の際は必ず最新の要項で研究指導をご確認ください。
変更した場合は、Web サイト各入学試験要項の変更履歴にも掲載します。

※★印の研究指導は、2028 年 4 月 1 日以降は退職に伴い廃止となります。

〔学校教育専攻〕

教育学研究指導	教授	博士(教育学) 早稲田大	藤井 千春
教育史研究指導	教授	博士(教育学) 北海道大	三上 敦史
教育哲学研究指導	教授	博士(教育学) 慶應大	坂倉 裕治
教育内容・方法研究指導	教授	博士(教育学) 筑波大	根津 朋実
学校経営学研究指導	教授		菊地 栄治
比較教育学研究指導	教授	博士(教育学) 早稲田大	鴨川 明子
教育行財政学研究指導	准教授	博士(教育学) 早稲田大	阿内 春生
教育工学研究指導	教授		三尾 忠男
初等教育学研究指導	教授	博士(心理学) 筑波大	河村 茂雄
初等教育学研究指導	教授	博士(教育学) 早稲田大	佐藤 隆之
初等教育学研究指導	教授	博士(教育学) 東京学芸大	大泉 義一
初等教育学研究指導	教授	博士(教育学) 東京学芸大	佐藤 寛之
初等教育学研究指導	准教授		大村 龍太郎
発達・教育心理学研究指導	教授	博士(教育学) 東京学芸大	上淵 寿
臨床心理学研究指導	教授	博士(医学) 筑波大	堀 正士
教育評価・測定研究指導★	教授	博士(文学) 早稲田大	椎名 乾平
学校心理学研究指導	教授	Ed. D. (コロンビア大)	本田 恵子
社会心理学研究指導	教授	博士(教育学) 早稲田大	安達 智子
教育社会学研究指導★	教授	博士(教育学) 東京大	吉田 文
社会教育学研究指導	教授	博士(教育学) 早稲田大	坂内 夏子
生涯教育学研究指導	教授	博士(教育学) 東京大	濱中 淳子
生涯教育学研究指導	准教授	博士(図書館情報学) 筑波大	田辺 智子

〔国語教育専攻〕

国語科教育研究指導	教授	博士(教育学) 早稲田大	幸田 国広
国語科教育研究指導	教授	博士(教育学) 早稲田大	菊野 雅之
日本語学研究指導	教授		松木 正恵
日本語学研究指導	教授		仁科 明
国文学研究指導	教授	博士(文学) 早稲田大	松本 直樹
国文学研究指導	教授	博士(文学) 早稲田大	新美 哲彦
国文学研究指導	教授	博士(文学) 早稲田大	福家 俊幸
国文学研究指導	教授	博士(文学) 大阪大	海野 圭介
国文学研究指導	教授	博士(文学) 神戸大	天野 聡一
国文学研究指導	准教授	博士(文学) 大阪大	谷口 高志
国文学研究指導	教授	博士(文学) 早稲田大	内山 精也
国文学研究指導	教授	博士(文学) 慶應大	五味渕 典嗣
国文学研究指導	教授	博士(文学) 早稲田大	和田 敦彦

[英語教育専攻]

英語科教育研究指導	教授	Ph. D. (ダラム大)	折井 麻美子
英語科教育研究指導	教授	Ph. D. (カリフォルニア大)	澤木 泰代
英語科教育研究指導	教授	博士(学校教育学) 兵庫教育大	オオガ - ボールドウィン ウィリアム
英語科教育研究指導	教授	Ph. D. (カリフォルニア大)	佐々木 みゆき
英語科教育研究指導	教授	博士(外国語教育学) 関西大	マキュワン 麻哉
英語学研究指導	准教授	Ph. D. (ペンシルベニア州立大)	木村 大輔
英語学研究指導	教授	Ph. D. (ハーバート大)	久野 正和
英語学研究指導	教授	博士(文学) デュースブルーク-エッセン大	バックハウス ペート
英語学研究指導	教授	博士(文学) 上智大	新川 清治
イギリス文学研究指導	教授	博士(文学) 九州大	虹林 慶
イギリス文学研究指導	教授	博士(人文科学) お茶の水女子大	松永 典子
アメリカ文学研究指導	教授	Ph. D. (ウィスコンシン大マディソン校)	佐久間 由梨

[社会科教育専攻]

社会科教育研究指導	教授	博士(学術) 早稲田大	池 俊介
社会科教育研究指導	教授	博士(教育学) 東京大	近藤 孝弘
歴史学研究指導	教授	博士(文学) 早稲田大	高木 徳郎
歴史学研究指導	教授	博士(文学) 早稲田大	大橋 幸泰
歴史学研究指導	教授	博士(学術) 神戸大	三村 昌司
歴史学研究指導	教授	博士(文学) 京都大	岡本 隆司
歴史学研究指導	教授	博士(文学) 早稲田大	石濱 裕美子
歴史学研究指導★	教授	博士(歴史学) ナンシー大	堀越 宏一
歴史学研究指導	教授		小森 宏美
地理学研究指導	教授	博士(理学) 東京都立大	久保 純子
地理学研究指導	教授	博士(学術) 東京大	箸本 健二
地理学研究指導	教授	博士(学術) 東京大	山内 昌和
政治学研究指導	教授		遠藤 美奈
経済学研究指導	教授		熊谷 善彰
社会学研究指導	教授	博士(社会学) 東京大	若林 幹夫
社会学研究指導	教授	博士(社会情報学) 東京大	野上 元
メディア・コミュニケーション学研究指導	教授	博士(社会情報学) 東京大	新藤 雄介

[数学教育専攻]

数学科教育研究指導 (教科内容・方法)	教授	Doctorat グローバル第一大	宮川 健
数学科教育研究指導 (教育情報・評価)	教授	博士(学術) 早稲田大	高木 悟
解析学・応用解析学研究指導	教授	理学博士 早稲田大	新井 仁之
解析学研究指導	教授	博士(数理科学) 東京大	梁 松
解析学研究指導	教授	博士(数理科学) 東京大	戸松 玲治
代数学研究指導	教授	博士(理学) 大阪大	村井 聡
代数学研究指導	教授	Ph. D. (フランクフルト大)・ 博士(数理科学) 東京大	安福 悠
幾何学研究指導	教授	博士(理学) 京都大	小森 洋平
情報数学研究指導	教授	博士(情報学) 京都大	高島 克幸
情報数学研究指導	教授	博士(情報理工学) 東京大	谷 誠一郎
トポロジー研究指導	教授	博士(理学) 早稲田大	谷山 公規
トポロジー研究指導	教授	博士(理学) 早稲田大	安原 晃
トポロジー研究指導	准教授	博士(数理科学) 東京大	山口 祥司

2. 研究指導の内容

[学校教育専攻]

教育学研究指導

藤 井 千 春

デューイをはじめアメリカのプラグマティズムの思想哲学を学び、それを手がかりとして各自の修士論文の作成に向けての準備を進める。受講者が順番に論文を発表し、相互に質問や意見交換を行うことを通じて、各自の研究を深める。

教育史研究指導

三 上 敦 史

教育史は一次史料を大切にしつつも、周辺の史料群に目を配り、制度・政策・実態のありようや変遷を解き明かす学問である。すなわち目標とするのは教育・人間に関する問題を歴史的な文脈で説明する「作法」の習得なのであって、研究テーマや時代に制限はない。各自が選び取った研究テーマについて、どのような史料を用いて説明するのか、そのためにはどこで何をどう探索するのか、いかなる手法で分析・説明するのかといった具体的な研究活動の基礎を指導する。議論の幅が広がるので、他系統の学部出身者も歓迎する。

教育哲学研究指導

坂 倉 裕 治

教育哲学は危機管理の学である。教育諸学を深めようとする学生、教職をめざす学生の双方にとって、予想外の困難を解決するためにとるべき思考の手順についての認識を磨くことが重要である。研究職をめざす学生には、文献研究において最低限守らなければならない作法・手続きを習得するための支援、文献研究に必須の外国語の運用能力向上のための支援を柱として指導する。留学や海外の研究機関と連携した研究活動についても支援する。

教育内容・方法研究指導

根 津 朋 実

カリキュラム研究は学際的であり、多様な研究対象や研究方法を含む。研究指導では、前提にあたる学習指導要領や教育課程、および関連事項について、学士段階で求められる基本的な知識の習得状況を確認する。続けて、各受講生が有する学士段階の知識や経験、および今日的话题への興味や関心等を確認する。以上の作業を通じ、各受講生とカリキュラム研究との共通点や接点を探り、研究テーマを深めていきたい。

学校経営学研究指導

菊 地 栄 治

学校経営学の研究指導においては、学校をめぐる諸課題の現状と構造を理論的・実証的に考究し、「場としての学校」や当事者をエンパワーするための理論構築を試みる。参加院生とともに、これまでの学校経営研究の成果をふまえつつ、臨床性、関係論、ケアリング、当事者主義、公共圏、同僚性などを鍵概念としながら学校経営研究の「ニューフロンティア」を創生していきたい。

比較教育学研究指導

鴨 川 明 子

比較教育学は、世界各国・地域における教育の現状と課題について、歴史的かつ現代的なアプローチにより明らかにする学問である。研究指導では、比較教育学領域の研究を行う者を対象に、修士論文の作成に向けた指導をする。各自の研究テーマを、先行研究の選別と吟味、関連資料の収集と分析、比較という方法の検討と適用を通して、より明確なものにする。と同時に、研究テーマに関する現状を把握する上で有用なフィールドの手法や各種調査技法の基礎も指導する。

教育行財政学研究指導

阿 内 春 生

教育行政学は教育に関する行政・制度・政策などを分析し、国内外、学校内外の教育活動を実現・保障していくための条件整備を追究する研究分野である。もちろん、多様な研究手法がありうるが、教育学に加えて、行政学、政治学、法学、社会学など隣接領域の専門知識を必要とすることが多い。研究指導では修士論文の作成に向けて計画的に研究を遂行できるように、研究設計、先行研究レビュー、研究方法など研究の基礎となる部分を重点的に扱う。この指導を通じて個々の持つ関心を、学術的貢献のある研究へと設計し、最終的に修士論文として完成できるようにする。また、研究室や院生室に閉じこもって研究するのではなく、他大学の院生・学生との交流、学会参加等を積極的に進めて行きたい。

教育工学研究指導

三 尾 忠 男

教育工学は、教育過程をシステムとして捉え、教育の諸課題を分析し、工学的なアプローチで目標達成や問題解決を目指す学問である。この研究指導では、参加学生の教育や学習に関するテーマについてそれぞれの教育システムの要素を分析し問題点を明確化し、最適なシステムを追求する研究方法を指導する。また、情報通信技術の教育での活用が着目されるこの分野であるが、授業研究と教師教育、情報教育とプログラミング教育などの持続的なテーマにも関心もっている。

初等教育学研究指導

河 村 茂 雄

担当者の研究テーマは、人間の教育・発達を促進する人間関係、集団体験のあり方をカウンセリング心理学の立場から明らかにしていくことである。したがって、研究テーマは、児童期・初等教育学を直接対象とするものだけではなく、教育・発達に関する全領域をその対象とするが、実証的研究であることが条件である。そして、各自のテーマに応じたデータの収集・分析、論文作成の指導を行う。関連する機関での臨床活動も奨励したい。

初等教育学研究指導

佐 藤 隆 之

担当教員の専門分野は、新教育（進歩主義教育）や経験主義の系譜に立つ教育思想と、それを実践に移す原理や実際に学校で応用した実践史です。学生の興味関心を尊重しつつ、教育思想・教育史研究の手法を中心として、独自の研究成果を上げられるように支援します。研究指導の範囲は、初等教育、その前後の就学前教育や中等教育全般とします。

初等教育学研究指導

大 泉 義 一

芸術教育、とりわけ視覚芸術・デザインに関する教育のあり方について、理論面・実践面の両面から研究指導を行う。我国の図画工作・美術科の教育実践を成立させている諸要件について、歴史的、社会的、文化的、実践的な諸側面から確認するとともに、今後の芸術教育のあり方について、デザインシンキングやスペキュラティブ・デザイン等の理論から検討する。またワークショップ論に基づき、学校外での芸術体験の意義について、ワークショップの企画・開発・実践を通して実証的に探究していく。

初等教育学研究指導

佐 藤 寛 之

理科教育における教授・学習論について研究指導を行います。自然事象を理解しようとするとき、学校での理科教育（科学教育）を通して学習者が獲得する科学的理解と、同じ学習者が日常生活の中で獲得する常識的理解は、必ずしも同じとは限りません。そのため、学習内容の理解を促すためには、常識的理解と科学的理解との相互作用を如何に展開すべきかについて検討する必要があります。本研究指導では、学習者の科学概念構築過程等について認識論的観点をふまえて、理論的・実証的に探究していきます。

初等教育学研究指導

大 村 龍 太 郎

担当者の研究分野は教育方法学です。特に初等教育において「教科等固有の価値と教科等横断的・汎用的な価値の両者を重視した学習者主体の授業づくり」及び「互いの自由と共同体の価値を実感する成員主体の学級づくり」を関連的・複合的に研究しています。授業における子どもの事実や学級のありようを質的に分析しながらその構造や具体的な教師の在り方、授業の在り方について理論的・実践的に検討するような研究や関心の学びを支援します。

発達・教育心理学研究指導

上 淵 寿

発達心理学（特に感情、アタッチメント、自己）と教育心理学（特に学習動機づけおよび学習プロセス）に関する研究指導を行います。受講者が修士論文を作成するために必要なアイディアの発表などや討論なども行うことがあります。

さらに、ミニ修論を節目節目で提出してもらいます。これは、研究や論文執筆を指導教員がきちんと評価するためであり、また受講者が時期を経るごとに、修論をより良いものに発展させていくためです。

臨床心理学研究指導

堀 正 士

この研究指導では臨床心理学、臨床精神医学に関したテーマを幅広く扱っている。指導教員は思春期・青年期のこころの問題と教育、アスリートにおける精神的問題、産業保健における精神的問題などに造詣が深い。このようなテーマに沿って修士論文のための研究を行う学生のための研究指導である。

教育評価・測定研究指導

椎 名 乾 平

心理学の立場から、評価・測定問題について考える。具体的には

- 1) 狭義の測定論（心理学的尺度、テスト理論、統計的データ解析、統計学史）、
- 2) 基本的仮定（正規分布、相関係数等）の検討、
- 3) 認知心理学的心理モデルとその実験的検証であるが、

データ解析指向というよりもデータが生成される心理プロセスの解明に重点を置く。また

- 4) 評価の社会的側面（偏差値問題、学力・選抜問題、進路指導、カリキュラムの評価等々）についての実証的研究もスコープにはいるであろう。

学校心理学研究指導

本 田 恵 子

学校をひとつの有機体と捉え、教職員、児童・生徒、保護者、地域コミュニティの機能を活性化することを目的とした実践的な研究を行う。反社会的行動（いじめ・暴力・非行）、非社会的行動（不登校・ひきこもり）、および軽度発達障害児に対する理論的理解を元に、啓発教育、危機介入、個別対応に対する心理教育的アセスメント力および個別指導計画の立案実施ができる実践的な研究指導を行う。

社会心理学研究指導

安 達 智 子

個人と社会の関わり、仕事社会への移行と適応、キャリア形成と支援等について社会心理学の研究手法をもちいた量的研究の実践を指導する。当該研究指導は、心理学研究法、統計分析、英語論文読解、その他心理学の論文執筆ために必要な知識とスキルを習得していることを前提としてすすめる。

教育社会学研究指導

吉 田 文

教育を社会に位置づける政策や制度、学校に代表される教育を行う場、教育に関わる多様な人、これらが社会のなかでどのようなメカニズムのもとにあるかを考察するのが、教育社会学である。教育に対し社会学的にアプローチするためには、考え方の枠組み（各種の理論）と分析の道具（量的・質的な調査方法）が必要である。この2つを確実に習得することを研究指導の主眼とする。これは、各人の研究関心を自分で深めていけるようになることを目的としたときの、基礎固めの位置づけをもつ。

社会教育学研究指導

坂 内 夏 子

本研究指導は、社会教育・成人教育について、各自の研究テーマに基づいた修士論文の作成をめざします。すなわち、1. 問いの設定、2. 研究対象の調査、3. 先行研究の検討、4. 持論の展開、5. 論文の執筆を進めるために支援していきます。

生涯教育学研究指導

濱 中 淳 子

大学や短期大学、専門学校といった高等教育について検討を加えようとしたとき、初等・中等教育とは異なる視点を持つ必要がある。本研究指導では、高校卒業後に経験する学びに関する諸課題を中心に扱うが、第一に高等教育研究の特徴がどのようなものなのか、深く理解することを目指す。そのうえで、各々が設定したテーマを追究することを通じて、高等教育を社会科学的に議論する方法の習得を図ることにしたい。

生涯教育学研究指導

田 辺 智 子

本研究指導では、図書館や生涯学習に関する制度・政策、社会に与える影響等を中心に扱う。指導に当たっては、学術研究の基本的なプロセスの習得を特に重視する。各自の問題関心を出発点に、先行研究の十分なレビュー、学術的に意義ある問いの設定、それに適した調査・分析を経て、問いの答えを導き出し論文にまとめるまでの一連の手順習得を目指す。また、実証分析に必要な質的・量的方法について指導を行う。

[国語教育専攻]

国語科教育研究指導

幸 田 国 広

院生各自の問題意識から、研究テーマの発見に結びつけるために、国語教育の研究領域・研究方法・先行研究事例等を紹介し、実際に演習を通して研究に必要な基礎的事項を習得していくことを目指す。

夏休みを挟んで、修士論文のテーマと研究計画を策定する。

国語科教育研究指導

菊 野 雅 之

本指導では、国語科教育学研究のために必要な研究力の基礎を形成する指導を行います。国語科教育に関する基礎資料読解や研究文献の精査・批評、学生のテーマ報告、授業実践報告などのワークショップ活動を通じて、修士論文執筆のために必要な研究力の形成を図るとともに、授業構想力や教材研究力の伸長も目指します。

日本語学研究指導

松 木 正 恵

日本語学（国語学）の各領域・分野についての研究指導を行う。日本語史の研究・現代日本語の研究のいずれにおいても、具体的な研究方法を学び、先行研究の適切な把握とその批判に基づいて自らの研究を進めていくことが基本である。また、実際に言語資料を収集・整理・分析し、さらにそれを修士論文にまとめ上げるための技術も必要となる。それらを通して、国語教育・日本語教育の現場等で直面する様々な問題に対処できる力を養うことも目標である。

日本語学研究指導

仁 科 明

日本語学・日本語史分野の研究をすすめるための基礎的な力を養成すべく指導をおこなう。各自が持っている関心・テーマを広げ、深めるいっぽうで、研究にとって不可欠な、資料（研究対象）の性質の理解、研究方法の理解、問題の性質（学説史）の理解を確立し、また、みずからの考えを適切に表現する能力を身につけることを目指す。

国文学研究指導

松 本 直 樹

『古事記』『日本書紀』『万葉集』や各国「風土記」などの作品に代表される上代文学および関連する古典教育分野の修士論文作成にむけた研究指導を行う。

国文学研究指導

新 美 哲 彦

平安時代における散文と後世の受容を中心に研究指導を行う。具体的には、物語文学・日記文学の領域で、ある作品およびその受容作品を分析し、先行研究を精査した上で、各自のテーマに基づいて考察を進め、修士論文を執筆するまでの過程を指導する。

国文学研究指導

福 家 俊 幸

この研究指導は、主として中古の物語・日記・随筆などを取り上げ、その講読を通じ本文・主題・構造・方法などを考究する。

先行研究をいかに踏まえ、いかに自らの論を構築するかを演習授業を通して考える。併せて、受講者の関心に応じて中古文学の教材化の問題も取り上げる。

一方で修士論文作成に向けて各自の研究テーマをまとめるための発表を繰り返し行う。

国文学研究指導

海 野 圭 介

平安時代後半から桃山時代頃までに成立した文芸とその周辺資料を中心に研究指導を行います。作品の精読、先行研究の精査、伝本の調査、作者及び同時代の歴史的背景の把握等といった研究を遂行する際に必要となる様々な事柄について、各自の対象とする作品及びテーマに従い考察を進め、修士論文を執筆するまでの過程を指導します。

国文学研究指導

天 野 聡 一

近世文学を自らの関心にそくして専門的に研究し、その成果を論文としてまとめるために必要な知識や能力を涵養します。具体的には、履修者の関心に応じて一次資料（古典籍）や、二次資料（論文）を精読するトレーニングを積んでゆき、議論と添削を通して、その成果を修士論文として提出するまでの過程を指導します。

国文学研究指導

谷 口 高 志

中国古典文学（特に唐代文学）の研究、および漢文教材の開発について指導する。作品の精読を基盤に据えつつ、新たな問題意識にもとづく調査報告を繰り返し、論文の完成を目指す。

国文学研究指導

内 山 精 也

中国における中国古典研究が正常化し、求心力を高めている現状のなかで、日本の関連研究もその存在意義が改めて問われている。日本の伝統的な強みを再認識しつつも、独自性を自覺的に強化する必要に迫られているといつてよい。このような観点から、われわれはまず足許を見つめる作業から始めなければならないであろう。すなわち、訓読の意義、そして中国古典の受容と再生産等々から今一度考え直す必要がある。その上で、日本人の作った漢詩文に光を当ててゆきたい。それは、研究の独自性を担保するだけでなく、漢文教育の新教材開発へと直結するプロセスとなるであろう。

国文学研究指導

五味 淵 典 嗣

日本近現代文学の専門的研究の土台となる修士論文執筆に向けた指導・支援を行う。とくに、対象となる作品や資料の精読に加え、研究対象の歴史的・社会的な位置づけや隣接する学問領域との接点など、幅広い視野で問題意識を深めていくことを重視する。

国文学研究指導

和 田 敦 彦

日本の近、現代文学の表現を中心に、受講者の関心に応じて、雑誌など多様な出版メディアや、読者の享受史を含め、幅広い対象についての研究指導をしています。研究の方法、文献資料の扱い、調査方法を実践的に学び、口頭発表やディスカッションなどを通して、論文の作成や研究発表に結びついていくよう、指導、支援していきます。

【英語教育専攻】

英語科教育研究指導

折 井 麻 美 子

本研究指導は、英語教授法、教材開発、各技能の指導法（特に発音や聴解指導、スピーキング指導）、外国語習得理論などをテーマとした修士論文執筆に役立つ、データ収集の方法論について学びます。専門テキストとともに、自分の研究テーマに関連する論文を読んでサマリーを作成することを通じて、データ収集手法について深く学びます。

英語科教育研究指導

澤 木 泰 代

本研究指導は、言語テスト研究を中心に応用言語学・英語教育研究に関連する様々なテーマに関する知識と、実証研究の手法を身につけることを目指す。言語テストは、言語の指導、学習との連携により第二言語習得を支えるものである。従って、言語テスト理論、第二言語習得、教育評価などの視点から言語テストについて検討する。また、質的・量的研究手法の両方について基礎を身に付けることで、多角的に研究テーマに取り組めるよう指導する。

英語科教育研究指導

オオガ-ボールドウィン ウィリアム

学校現場に貢献できる指導要因・方法を中心に研究する。初等・中等教育の学習環境、モチベーションとエンゲージメントの関係、または教員がそれぞれの要因に影響を及ぼせる方法を、現場を中心に探れる研究者を養成する。また、学習意欲・動機付けに関する普遍的な理論について指導する。研究法や統計法について興味があることが望まれる。

英語科教育研究指導

佐々木 みゆき

本研究指導では、人はなぜ、どのように第2、第3の言語で書く力を発達させるのか、それはどのように第1の言語で書く力と関わるのかについての学問である、「第二言語ライティング論」について学び、興味があるトピックで論文を書く手助けをします。具体的には、(1) 関係する基礎概念、背景となる思想と研究方法の変遷を学ぶ、(2) 関連論文の構成を学び、興味のある論文を系統だてて読む、(3) 妥当性があり実行可能な Research Questions を問う研究を企画する、という順序で授業を進めます。

英語科教育研究指導

マキュワン 麻哉

研究指導では、言語習得に影響を与えるとされるさまざまな学習者要因（動機づけ、不安、性格、バーンアウト、ストレスなど）を取り扱います。このテーマは、応用言語学、教育心理学、社会心理学など複数の分野にまたがるため、院生の皆さんには、応用言語学や心理学における様々な関連の理論や実践方法を網羅し、実証研究に取り組んでいたきたいと思います。

英語学研究指導

木村大輔

グローバル社会における英語と多言語コミュニケーションについて探究する。学術的・社会的だけでなく個人的にも意義のある研究を遂行するために、テーマ設定、文献調査、データ収集・分析、論文執筆等について柔軟な指導を行う。

キーワード： 応用言語学、社会言語学、語用論、世界の英語（World Englishes）、共通語としての英語（English as a lingua franca）、会話・談話分析、言語景観、言語イデオロギー、多言語コミュニケーション、マルチモダリティ、トランスリンガリズム、異文化コミュニケーション

英語学研究指導

久野正和

私の研究室では、生成文法の統語論を中心とした研究指導をしています。近年では、特に統語論と数学の融合を目指しています。具体的には、極小主義における併合を数学の加法と乗法に対応させることで、移動の根本理由は共通因数の括り出し（因数分解）であるという数学的主張を提案しました。また、移動の局所性条件は数学の式変形と同じ原理によって説明可能であることも示しました。併合と移動以外でも、否定一致表現を虚数単位 i とする分析や、多重指定部の *abba* 型構造をハノイの塔の数理に帰着する発想など、統語論と数学の間を自由に行き来しながら、日々研究を続けています。学生指導においては、統語論研究を中心に据えながら、数学、物理学、生物学などのサイエンス全体にも精通した射程の広い研究者に成長してもらえるように、心掛けています。

英語学研究指導

バックハウス ペート

社会の中の言語を対象としたテーマの研究を指導する。（社会）言語学の理論的背景の知識を深めるとともに、研究方法、データ収集と分析、また研究結果をプレゼンテーションや論文で発表するスキルを身につける。自立した、アカデミック英語の読み書きに堪能な学生が対象である。

英語学研究指導

新川清治

本研究指導では言語研究における歴史的視点の獲得を目指す。知っておくべきことはいくらでもあり、研究テーマによって優先順位も変わってくるため、具体的な修士論文作成指導の過程で必要な知識を身につけていってもら。時期や分野は問わないが、担当教員自身は現在、初期中英語期の形態論、統語論を中心に扱っている。

イギリス文学研究指導

虹林 慶

イギリス文学に関する知識・教養を深め、学術活動に必要なアカデミック・スキルズを身につけることで、修士論文の執筆が行えるように指導します。なお、19世紀の詩や散文などが担当教員の専門領域ですが、それ以外の領域についても対応します。

イギリス文学研究指導

松永典子

近代（モダニズム／モダニティ）はいつから始まり、どのように変容し、どんな条件がそれを可能にしたのか、そこから排除されたものは何か。こうした問いを、イギリス文学・文化を通じて考えている。そのため研究対象はおもに散文（小説・伝記）だが、近代に発展した批評（ジェンダー、ポストコロニアル批評）、メディア（演劇・映画）にも関心を持っている。先行研究の精査・資料収集・論文執筆（日英）等の研究力の形成を支援しながら、完成後に査読付き学術誌に投稿を目指すような、修士論文の作成を指導する

アメリカ文学研究指導

佐久間 由 梨

アメリカ文学・文化研究の基礎的な技能（資料収集、先行研究の調査、アカデミック・ライティング、日本語・英語によるプレゼンテーション、議論および意見の共有など）を養成し、質の高い修士論文へと結実させることが目標です。研究職を志す学生には、(1)修士論文を発展させ学術誌に投稿すること、(2)アメリカの大学院（修士・博士課程）へと進学することを目標とした指導も行います。担当教員の専門領域は 19 世紀から現代までのアフリカ系アメリカ人文学・文化・音楽、フェミニズム、ポピュラー音楽研究ですが、研究指導の範囲はそれらに限らず、アメリカに関連する分野全般とします。

【社会科教育専攻】

社会科教育研究指導

池 俊 介

社会科教育論の諸分野のうち、主として地理教育論に関する指導を行う。近年の地理教育は、「地理的見方・考え方」や「地理的スキル」の重視など、大きな変革を遂げつつある。こうした現代的な課題の検討を重視するが、地誌学習・地理教育史など地理教育論の基礎的な課題についても取組みたい。地理教育論の研究には、教育学・歴史学など地理学以外の諸科学に関する知識や広い視野が求められるが、当然ながら地理学についての基礎的な学識を備えていることが前提とされる。そのため、学部で地理学を専攻していることが望ましい。

社会科教育研究指導

近 藤 孝 弘

公民教育・歴史教育を中心に研究指導を行う。左の二つの領域は、過去と現在の世界を捉える連続した営みであると同時に、それら自身が今日の世界の一部なのであり、その意味でも両者は緊密に結びついている。このように意識的に広い視野を維持することにより、修士論文執筆の支援を中心に、受講生が歴史・文化・国家・社会等の基礎的視点について、より批判的かつ洗練された理解を獲得し、その上で独自の研究成果を残せるように指導する。

歴史学研究指導

高 木 徳 郎

日本の平安時代から戦国時代（10～16 世紀）における政治・経済・社会・文化に関する諸問題を歴史学的に考察する上で必要なスキルを修得するための研究指導を行う。担当者の専門分野は、日本中世の荘園史・村落史および環境史であるが、研究指導は、学生の関心や個性を尊重しつつ、幅広い視野から問題意識と方法論を磨き上げ、着実な史料批判と独自の分析に基づいた、意義ある修士論文の作成に至るまでの指導を行う。なお、どのようなテーマであれ、素材を多角的に検討するための現地調査・史料調査は必須であるので、そうしたノウハウを積極的に吸収してもらいたいと考えている。

歴史学研究指導

大 橋 幸 泰

日本近世史（16C 末-19C 中）の諸問題を材料に、歴史学を専攻するうえで必要な、研究史の把握力と史料の読解力を鍛える。その際、前近代的要素と近代的要素の両方の側面を総合的に捉えることにより、近世の固有性を追究することに力点を置く。とりわけ歴史に向き合う姿勢として、生活者の視点を大事にし、政治・経済・文化の諸相を複眼的に捉える訓練を行う。また、日本近世史を専門としつつも、歴史学の社会的責務についても考えていく。歴史研究者・博物館学芸員・歴史教員・アーキビストなど、歴史学またはその関連領域を一生の仕事にすることを希望する者の応募を求める。

歴史学研究指導

三 村 昌 司

担当者の専門は 19 世紀後半の日本近代史及びアーカイブズ学（特に民間所在資料に関する研究）である。ただし研究指導においては、日本近現代史（幕末維新期から戦後）を対象として、歴史学を専攻するうえで必要な専門的な能力（史料の読解力や論文の理解力）を高め、修士論文を作成できるようにする。また、歴史教育、博物館・文書館などの活動、大規模災害時における歴史資料保全活動などの実践的活動についても知り、歴史学と社会とのつながりについても考えていくことにしたい。

歴史学研究指導

岡 本 隆 司

主に東アジアの近世・近代史を研究対象として、受講者の問題関心や研究テーマを考慮しつつ、漢語はじめ多言語の史料を読み、修士論文作成に向けて指導を行う。担当者の専門分野は中国近世・近代の対外関係史であるものの、研究指導においては、漢語のみにとどまらない多角的な史料分析を重視し、時代を問わず、また政治・社会・経済・文化・思想などジャンルも問わず、広く院生各自の問題関心に対応する。

歴史学研究指導

石 濱 裕美子

チベット仏教は 13 世紀にはモンゴル帝国(元朝)、17 世紀には大清帝国(清朝)の皇帝の帰依をうけ、現在ダライ・ラマ 14 世は欧米における仏教ブームの「顔」となっている。このように長期にわたりチベット仏教が多様な民族、地域に影響を与えてきたことは、チベット仏教思想が極めて普遍性が高いことを示している。チベット仏教の影響下に成立した資料を題材にして、歴史資料の読解、資料批判の仕方(資料の書き手によって、また使用言語によって伝わるものが異なることを見極める方法)を身につけつつ、学生の希望と到達度に応じて修士論文のテーマを定め、それに応じた資料読解などを行う。

歴史学研究指導

堀 越 宏 一

担当者の専攻は、フランス語圏を中心とした中近世ヨーロッパ史である。大学院の授業では、古代から 17 世紀ころまでの前近代ヨーロッパ史に関する研究のための基本的技術の修得を目指しつつ、同時に、参加者による前近代ヨーロッパ史を対象とした修士論文の制作に資するために、ラテン語ないしヨーロッパ諸言語で書かれた史料と研究文献の講読を通して、研究指導を行う。

歴史学研究指導

小 森 宏 美

担当者の専門は旧ソ連・東欧地域の近現代史である。本研究指導では、歴史研究、特に近現代史研究における研究者の被拘束性に関する自覚を重視して指導を行う。概念史や社会の変化と歴史認識の関係に注意を払いつつ、先行研究を丁寧に読み解く作業も一緒にやりたい。

地理学研究指導

久 保 純 子

担当者の専門分野は自然地理学（地形学・第四紀学）で、おもに「平野」の地形を対象としている。最近の研究テーマとしては、関東平野における第四紀の地形・環境変化、日本やアジアをフィールドとした先史時代・歴史時代の平野の環境、自然災害と地形などがある。研究室ではフィールドワークを重視しつつ各人がオリジナルな成果をあげることをめざし、それとともに他大学や学会・研究会との交流や野外巡検なども活発におこないたい。

（担当者の web site <https://sumik.w.waseda.jp/index.html>）

地理学研究指導

箸 本 健 二

担当教員の専門分野は経済地理学および都市地理学であり、特に大都市圏における商業立地や、地方都市の中心市街地問題とその活性化を主な研究テーマとしている。研究指導では、学生の問題意識や関心を尊重しつつ、産業システムの空間的展開を経済地理学的視点から解釈し、修士論文に収斂するための諸段階について指導する。また研究指導の一環として、現地調査ならびに他大学院との合同勉強会（インターゼミ）を実施する。

地理学研究指導

山 内 昌 和

担当者の専門分野は人口地理学および農山漁村地理学である。研究上の関心は持続的な地域社会の仕組みを探ることにあり、最近では地域における人口・家族・世帯の変化と就業・産業構造の変容との関連の解明が研究課題である。研究指導では、学生の関心を尊重しつつ、先行研究の検討、統計等各種資料や野外調査から得たデータの分析、課題設定に応じた考察をバランスよく行うことを特に重視し、修士論文作成に向けた指導を行う。

政治学研究指導

遠 藤 美 奈

担当者の問題関心は、人間生活に必要なニーズの充足に公権力は憲法上どのような義務を負うかにある。研究指導では、憲法に関わる修士論文の完成に向けて、憲法の解釈論及び憲法理論に関する文献講読を行い、それぞれの問題意識を明確化するとともに、各人の研究報告とそれに対する討論を通じて、論文における論証を学問的検討に耐えうる水準に鍛えてゆく作業を行う。

経済学研究指導

熊 谷 善 彰

株式・債券・為替・商品などの市場の価格変動メカニズムの分析、企業・家計などの経済主体がリスクのある状況で行う意思決定についてファイナンス理論を応用した分析を主要な対象とする。当該分野の基礎的な文献ならびに学生の研究テーマに関連した先行研究の講読と各人の研究報告を通じて修士論文の作成を支援する。

社会学研究指導

若 林 幹 夫

都市、メディア、空間、時間、身体等を対象とする社会学理論、比較社会学、現代社会論を専門とする。社会学のみならず隣接する社会諸科学や人文諸科学等も視野に入れた文脈の中に各自の問題意識を位置づけ、必要な知識や教養を身につけ、文献の講読、レジュメや草稿の執筆、報告、討論を繰り返し、研究を深化させて修士論文に結実させるための訓練と指導をおこなう。

社会学研究指導

野 上 元

担当教員の専門は、歴史社会学と戦争社会学である。前者は、歴史研究一般に近い歴史社会学と、歴史認識や記憶、メディア・表象分析に焦点を当てる「歴史の社会学」の両方を含む。また後者は、「戦争・軍隊と社会」に関わる歴史的・現代的なテーマを広く扱う。学生の興味関心を最大限尊重するが、どのようなテーマであれ、様々な対象・資料にアプローチする調査・データ分析に関わる実証的な社会学的想像力を持ってもらうよう指導する。

メディア・コミュニケーション学研究指導 新 藤 雄 介

メディア研究の中でも、特に歴史的な研究を専門とする。研究において大切なのは、これまでの研究では明らかにされてこなかった重要な点を明らかにする、ということである。そのために、対象の選択、方法論や分析の着眼点の設定、資料やデータの収集、具体的な分析といった点で、自分の研究がどのような独自性と重要性を持つのかを説明できるように指導し、研究報告や修士論文執筆を行えるようにする。

[数学教育専攻]

数学科教育研究指導（教科内容・方法） 宮 川 健

数学教育学に関する研究指導を行う。数学という学問・知識体系の性格の検討を通して、数学の学習がなぜ難しいのか、特定の形態の指導がどのような学習をもたらすのか、などといった研究に取り組む。数学の指導や学習の営みを理解することが主たる課題である。具体的には、幅広い研究テーマが可能である。これまで担当者は、論証指導、数学の授業や学習過程、テクノロジー利用、教師教育などの研究を進めてきた。

数学科教育研究指導（教育情報・評価） 高 木 悟

教育情報の分析や評価などに関連して、テスト理論やファジィ理論、ラフ集合理論に関する数学的な基礎とその応用方法についての演習を行なう。テスト理論については、S-P 表分析や CMI システムなどの基礎と応用についての研究を行なう。また、ファジィ理論・ラフ集合理論については、教材構造分析や教育評価システムなどの基礎と応用についての研究を行なう。これらのテーマは、いずれも教育情報工学の新しい研究課題であり、現在のような情報化時代の数学教育に有用である。

解析学・応用解析学研究指導 新 井 仁 之

解析学・応用解析学に関する研究指導を行う。特にウェーブレット・フレーム、フレームレットなどの数学的な理論と関連する応用に焦点を当てた指導を行う。

解析学研究指導 梁 松

解析学の一分野として、確率論や確率解析に関する研究指導を行う。必要に応じて基礎知識を学んだ後、関連する研究分野の中から学生の希望も考慮して研究テーマを決める。その後、テーマに関する適切なテキストや先行研究の文献を選び、セミナー形式を中心として数学研究の進め方も含めて指導する。特に、常に論理的思考ができることは、卒業後の活躍にも役立つと考えている。

解析学研究指導 戸 松 玲 治

関数解析学や作用素環論に関する研究指導を行う。C*-環や von Neumann 環の基礎理論を学んだ上で、さらに発展的な内容をいくつかのトピックの中から選び研究する。具体的には、富田・竹崎理論、subfactor 理論、テンソル圏、量子群、エルゴード理論など。

代数学研究指導 村 井 聡

可換環に関する代数的な研究か凸多面体の組合せ論に関する研究についての指導を行う。代数的な研究を希望する場合、可換環論の基礎知識を学習し、組合せ論と関連する代数に関する研究やグレブナー基底などを用いて計算代数に関連する研究を行う。組合せ論的な研究を希望する場合、凸多面体論の基礎を学び、面の個数の数え上げ論に関する研究を行う。

代数学研究指導 安 福 悠

代数的整数論、特に、高さ関数を用いて代数多様体の有理点や整数点を調べる分野である「ディオファントス幾何」、あるいは、代数多様体の自己写像を繰り返し合成して整数論的性質を調べる分野である「数論的力学系」に関して研究指導を行う。テキストで基本的理論を学んだのち、学生の希望に応じて研究テーマを決め、先行研究の文献を選んでいく。セミナーや研究集会への参加も促し、自身で研究を進めていけるように指導する。

幾何学研究指導 小 森 洋 平

複素解析幾何の話題としてリーマン面やゼータ関数、フックス群やクライン群などの離散群の幾何を扱う。または多面体の面に関する鏡映変換群に関する幾何について研究を行う。また幾何教育のテーマとして、平面代数曲線論などの射影幾何学の研究も行う。

情報数学研究指導

高 島 克 幸

暗号理論、暗号数理、計算数論に関する研究指導を行う。それら研究分野において、計算機科学的アプローチと数理科学的アプローチを組み合わせた視点からの研究を行う。学生の希望に応じて、研究遂行における両アプローチの比重を決めて、その指導方針に従って、最新の研究論文や当該分野の基本文献に基づいたセミナーを行う。基礎力を固めるのと同時に、自身で研究を進めていけるように指導していく。

情報数学研究指導

谷 誠 一 郎

理論計算機科学を背景として、量子計算量や量子アルゴリズムに関する研究指導を行う。学生の希望も考慮して研究テーマを決定し、必要に応じて量子計算の基礎力（必要な数学、量子情報理論、計算量理論等）を固めるとともに、研究テーマに関連するテキスト・論文によるセミナーを通じて、主体的に研究を進められるよう指導する。

トポロジー研究指導

谷 山 公 規

結び目理論、特にその中でも空間グラフ理論を専門としている。また3、4次元多様体論、位相幾何学的グラフ理論、一般位相空間論、トポロジーと関わる微分幾何学などにも興味を持っている。これらの話題の中から学生の希望によって研究テーマを決める。適当なテキストや論文によるセミナーを主体として数学研究の進め方を指導する。また関連する国内外の研究会、談話会、セミナーなどへの積極的な参加も奨励する。

トポロジー研究指導

安 原 晃

結び目理論の中から研究テーマを決める。基礎知識（多様体，基本群，被覆空間，ホモロジー群等）を確認しながら、結び目理論の入門書に取り組む。その後、テーマを絞って複数の研究論文を読む事により、修士論文に向けた研究指導を行う。

トポロジー研究指導

山 口 祥 司

3次元位相幾何学および結び目理論に関する研究指導を行う。低次元位相幾何学、結び目理論および双曲幾何学に関わる内容から研究テーマを決める。研究テーマに関連する多様体論、結び目理論や双曲幾何学の基礎理論を学習した上で、研究テーマに沿って発展的な内容を選び研究を行う。